

ProVisionaire Touch

セットアップガイド

このたびは、ヤマハProVisionaire Touch(プロビジョネアータッチ)をダウンロードいただき、ありがとうございます。 ProVisionaire Touchは、操作対象システム(MTX/MRXシステム、RM-CG、RM-CR、MusicCast機器、Disklavierなど本アプリケーションから制御される機器で構成されたシステム)をタブレット端末(iPad)からWi-Fiネットワークを通じてリモートコントロールするためのアプリケーションです。 さまざまなウィジェットを配置して自由にコントロールパネルをデザインできるので、使用形態に合ったカスタムパネルをシステムに用意できます。

本書をお読みになる方に

本書は、本アプリケーションを使ってカスタムコントロールパネルを設計/制作/設定する方を対象としたガイドブックです。一般ユーザー向けのガイドブックではありません。

ご注意

- このソフトウェアおよびセットアップガイドの著作権はすべてヤマハ株式 会社が所有します。
- このソフトウェアおよびセットアップガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびセットアップガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このセットアップガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて操作 説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Apple、AppleロゴおよびiPadは、米国および他国のApple Inc.の登録商標です。
- IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 商用目的で音源を使う場合、著作権にご注意ください。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- ・本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または 登録商標です。
- アプリケーションソフトウェアは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。最新のアプリケーションソフトウェアは、App Storeからダウンロードできます。

目次

ProVisionaire Touchでこんなことができます	3
ソフトウェアの動作環境	4
理解しておく用語/概念	5
インストールの手順	
起動方法	
共通の設定操作	
メニューバーについて	
設定ファイルの管理 — ファイルマネージメントボタン	
ウィジェットの複数選択 — マルチセレクトボタン	
カスタムパネルの制作 — ページエディットボタン	
ウィジェットのデザイン	
パラメーターのアサイン	
ページの切り替え — ページセレクションボタン(コントロールモード)	
ページの管理 ― ページマネージメントボタン(デザインモード)	
コントロールする機器の登録 ― デバイスマネージメントボタン	
コントロールパネルの設定 ― セットアップボタン	
コントロールパネルの情報 ― インフォメーションボタン	
接続前の準備	
困ったときは	
ソフトウェアライセンスについて	
~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ ~ / / / / / / / / / /	/ /

ProVisionaire Touchでこんなことができます

- ProVisionaire Touchは特別なプログラミングの習得を必要とせず、タブレットデバイスの操作で直感的にスライダー、ボタン、写真などのウィジェットをページ(画面)上に配置し、設備物件内容や使用形態に応じたお客様オリジナルのタッチコントロールパネルを作成できます。
- デザインページは複数用意できますので、エリア、ユーザーごとのコントロールパネルを作ったり、特定のプリセット、パラメーターの状態に応じたデザインページを制作できます。
 そしてコントロールパネルやデザインページをアクセス制御することで、より安全で利便性の高いコントローラーの運用が可能となります。
- 完成したコントロールパネルのデータはファイルとしてエクスポート可能ですので、複数台のコントローラーを同じ物件で使用したり、テンプレートとして保存し、別の物件での使用や共有をすることで、効率的に便利なコントローラー制作が可能となります。
- リモートコントロールに特化したProVisionaire Touch KIOSK(以降KIOSK)用の設定ファイルを作成できます。
- ProVisionaire ControlでデザインしたProVisionaire Touch KIOSK用コントローラーファイル(拡張子.ypvtk)をProVisionaire Touch KIOSKでインポートして使用できます。
- 操作対象システムとはWi-Fi経由で接続しますので、タブレットデバイスを壁に固定するだけでなく、持ち歩いて操作することで、小回りの利く便利なリモートコントローラーとして運用できます。

本書をお読みになる際に

本アプリケーションの画面および機能説明に登場するプリセット(Preset)という言葉は、「イメージ画像やカラーパレットで用意済みの素材」と「MTX/MRXシステムのプロセッサーが管理するプリセットデータ」の2つのものを示す用語として使われています。混乱を避けるため、本書中では前者(用意済みの素材)を「プリセット/Preset」と表記し、後者(MTX/MRXシステムのプリセットデータ)を「Preset」と表記します。ご理解の上、お読みください。

ソフトウェアの動作環境

タブレットデバイス

- ハードウェア: Apple社iPad(第4世代iPad以前および第1世代iPad miniを除く)
- OS:iOS 11.0以上
- * 最新の動作確認済みデバイスとOSバージョンの情報を下記のウェブサイトにてご確認ください。

http://www.yamahaproaudio.com/

- * iPad以外のiOS機器では動作しません。
- 操作対象システム*
 - * ProVisionaire TouchおよびProVisionaire Touch KIOSKが対応している製品については、下記ウェブサイトの製品ページの「対応機器」にてご確認ください。 http://www.yamahaproaudio.com/
- Wi-Fiアクセスポイント(802.11n/5GHz推奨)
- CAT5eケーブル(操作対象システム~Wi-Fiアクセスポイント間接続用)

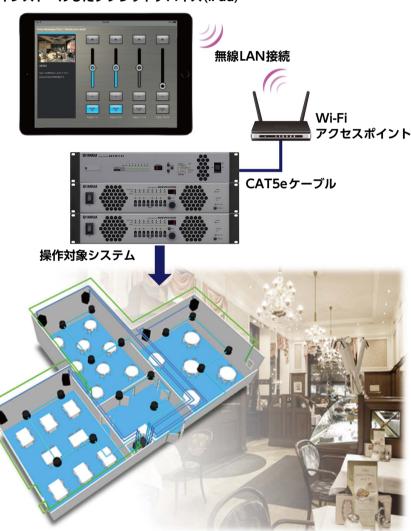
● コントロール可能な環境

 1台のMTX/MRXシステムのデバイスに対して、Wireless DCPやAMX/ Crestronなどを含めて最大8台のコントローラーを接続できます。

● 設定

- Power User、Administrator、Screen Lockの3つのアクセス制限を設定可能。
- Monitor Deviceにより操作対象システムをモニターが可能。
- iPad を本アプリケーション(コントローラー)専用端末に設定可能。

ProVisionaire Touchまたは ProVisionaire Touch KIOSKを インストールしたタブレットデバイス(iPad)



理解しておく用語/概念

ロール

ProVisionaire Touchでは以下のロールがあります。

• Administrator(管理者)

コントロールパネルを設計/編集する人(主に施工業者)。この セットアップガイドを読む人です。機能制限解除をするための Administrator Code(4桁)を使用します。

• Power User(パワーユーザー)

設備管理者など。アクセス制限をかけたページへの移動や、設定ファイルの変更をするためのPower User Code(4桁)を使用します。

• Staff(スタッフ)

パラメーターを操作する人。スクリーンロックを解除するためのUnlock Code(4桁)を使用します。

• Guest(ゲスト)

訪問客など操作権限がない人。

各ロールでできることは以下となります。

	Administ- rator	Power User	Staff	Guest
スクリーンロック解除	_	_	✓	
パラメーター操作	✓	✓	✓	_
設定ファイルの変更	✓	✓	_	
デザイン変更	✓			_

ページ

ProVisionaire Touchではデバイスを制御する際の、「複数のウィジェット(ボタンやスライダーなど)から構成される画面」をページと呼びます。本アプリケーションでは、設置場所や使用するユーザーなどに応じた画面を最大50ページまでデザインできます。また、特別な目的のために以下のページもあります。

• Home Page(ホームページ)

モニターデバイスが設定されていないときやオフラインになったときに表示するページ。ファイルをロードするときに[Autoload this file on next launch] スイッチをオンにすると、ProVisionaire Touchを起動するだけでこのページが表示されるようになります。

• Fallback Page(フォールバックページ)

[Preset] リコールで自動ページ切り替え時に認証失敗した場合に表示させるページ。

ページではありませんが、スクリーンロックしている状態の画面 表示も設定できます。

ファイル

ProVisionaire Touchでは以下のファイルを使用します。

設定ファイル(拡張子.ypvt)

ProVisionaire Touchのすべての設定が記述されているファイル。複数のページ情報や画像、制御デバイスの情報(Remote Control Setup Listの内容を含む)などが記述されています。設定ファイルはAirDropやメールなどで他のiPadに送ったり、コンピューターのiTunesで共有したりできます。

- ProVisionaire Touch KIOSK用設定ファイル(拡張子.ypvk)
 ProVisionaire Touch KIOSK用の読み込み専用設定ファイル。
 設定ファイルはAirDropやメールなどで他のiPadに送ったり、
 コンピューターのiTunesで共有したりできます。
- Remote Control Setup List(拡張子.rcsl)

 MRX Designerの「Remote Control Setup List」ダイアログ
 でExportされるファイル。ProVisionaire TouchでMRXのパ
 ラメーターをアサインするために読み込むファイルです。P.V.
 TouchのDocumentsに入れるとProVisionaire Touchで読み
 込めます。

モード

ProVisionaire Touchでは以下のモードがあります。

Design Mode(デザインモード)
 ページの作成や編集をするためのモード。Administratorの権限が必要です。この状態では操作対象システムとオンラインになっていません。

• Control Mode(コントロールモード)

設定ファイルを読み込んだり、操作対象システムとオンラインにするためのモード。AdministratorまたはPower Userの権限が必要です。ページをデザイン中に動作確認をしたりするときにも使用します。

その他

このセットアップガイドでは以下の用語も使用します。

• Widget(ウィジェット)

スライダーやボタン、画像、長方形(レクタングル)などのGUIパーツ。これらのパーツはデバイスのパラメーターを割り当て、フェーダーやOn/Offのパラメーターと同期させることができます。

• AirDrop(エアードロップ)

iOS7以降のデバイスで実装されている無線のファイル転送技術。AirDrop対応機器間ではアクセスポイントを経由せずにiPad 同士の直接の通信(P2P)でデータを共有できます。

• KIOSK(キオスク)

ProVisionaire Touch KIOSKの略称として使用します。KIOSK はコントロールに特化したアプリケーションで、施工先のユーザーが使用するのに最適です。

インストールの手順

App Storeから、 "ProVisionaire Touch" をダウンロードします。

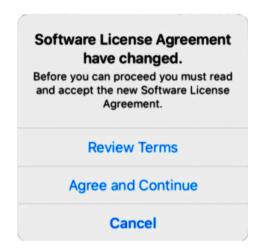
ヤマハプロオーディオサイトのMTX/MRX製品ページにリンクがあります。

http://www.yamahaproaudio.com/



起動方法

"ProVisionaire Touch" アイコンをタップします。
 初回起動時には、Software License Agreement (ソフトウェア使用許諾契約)の画面が表示されます。



- 使用許諾の内容を表示する場合は[Review Terms]、 同意する場合は「Agree and Continue」、 同意しない場合は[Cancel]をタップします。
 - * 同意後は、次回起動時にこの画面は表示されません。
 - P.V Touchのブラウズ画面が表示されます。
- 3. すでにある設定ファイルを編集する場合は、ファイルを タップします。

4. 新規ファイルを作成するために、[書類を作成]アイコンをタップします。

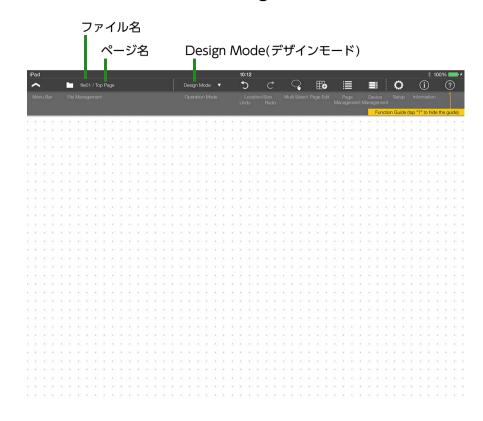
下記ダイアログが表示されます。





- 5. テンプレート "Blank" を選択し、ファイル名を入力したら、[完了]をタップします。
 - * ファイル名は拡張子抜きで最大32文字まで入力できます。
 - * テンプレートには<Sample>ファイルが複数用意されています。編集/ 保存ができますので、制作の参考にお使いください。

6. カスタムパネルをデザインするためのモード[デザインモード]で、ページ(名称はPage1)が表示されます。



* 画面上の黄色い吹き出し(ファンクションガイド)を表示させたくない場合は、ファンクションガイドボタン ② をタップしてください。

これでコントロールパネル作成の準備はできました。 この画面上にスライダーやボタンなどのウィジェットを配置 しパラメーターをアサインすることで、操作対象システム用 のカスタムコントロールパネルを作成していきます。

次のステップでは、コントロールパネルの制作、設定から ネットワークへ接続して納品するまでのプロセスを、簡単な サンプルを例に、実際に作成しながら解説していきます。

スクリーンの表示が消えたら?

上記手順6で用意したページは、そのまま何も作業をせずに数十秒放置すると、表示が消えて操作ができない状態になります。これはアクセス権限のない人に不用意に操作させないためのスクリーンロックという機能です。

スクリーン上をタップするとスクリーンロック解除のコード入力画面が表示されます。コードの既定値は「0000」です。入力すると元のページ表示に戻ります。この機能を解除したい場合は、Screen Lockをご覧ください。

ファイル編集を中断/再開するには?

制作作業を中断後、再開するたびにファイルをタップ→アクセス認証をやり直すのが面倒な場合は、"自動ロード"を設定しておくことをおすすめします。アプリケーション立ち上げ時に、設定したファイルを前回終了時の状態で開きます。

基本的なプロセス

簡単なコントロールパネルの制作を例に、制作から機器をコントロールするまでのプロセスを解説します。

データの保存について

本アプリケーションでは、自動的にページの変更内容が設定ファイルとして保存されます。

1. ボタンを配置する

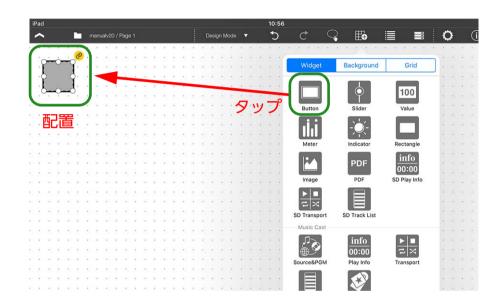
まず、On/Offスイッチに使うボタンを配置しましょう。

1. メニューバーのページエディットボタン total をタップします。

2. ウィジェットメニューでボタンのアイコンをタップします。

パネル上にボタンのウィジェットが配置されます。

* ウィジェットメニューを閉じるには、パネル背景をタップします。



3. ボタンを好きな位置に移動します。

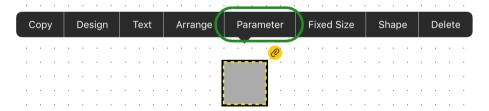
配置されたボタンの外周に点線と白丸が表示されます。白丸 以外の部分をドラッグすると移動できます。白丸をドラッグ するとサイズを変更できます。

- * 点線と白丸が表示されていない場合は、ウィジェットをロングタップすると表示されます。
- *「グリッド」を設定すると、サイズ変更や配置の際に便利です。
- * 「Fixed Size(フィクストサイズ)」を設定すると、サイズは固定され変更できなくなります。

2. デバイスとパラメーターを設定する

このボタンでコントロールするデバイスとパラメーターを設 定しましょう。

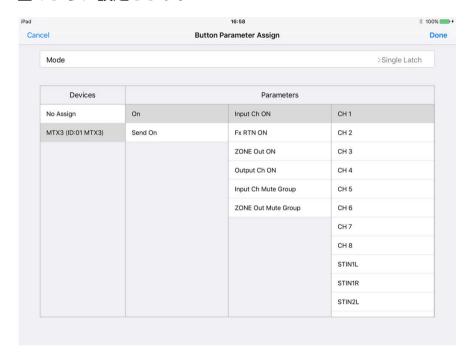
- 1. コントロール対象のデバイスは、メニューバーのデバイスマネージメントボタン をタップして表示される [Devices]画面で設定します。→デバイスの登録 ここでは[Model]を "MTX3"、[Unit ID]を "01"にしておきましょう。[Name]はお好きな名前を付けてください。 具体的に設定したいデバイスがある場合は、「デバイスの登録」をよくお読みになり、モニターデバイスなどもあわせて設定してください。
- 2. ボタンをタップして、以下のコンテキストメニューを表示させます。



- **3.** [Parameter]をタップします。 [Button Parameter Assign]画面が表示されます。
- 4. ボタンに一つのパラメーターをアサインするために、 [Mode] 欄右端のボタンの機能名をタップして、表示されるメニューから [Single Latch] を選択します。 On/Offスイッチの機能は [Single Latch] という機能名になります。

5. [Devices] 欄にある "手順1で登録したデバイス名" を タップします。

アサインできるパラメーターが一覧表示されます。 このボタンでOn/Offを切り替えたいパラメーターを選択します。たとえばチャンネル1入力のOn/Offであれば、以下の画面のように設定します。

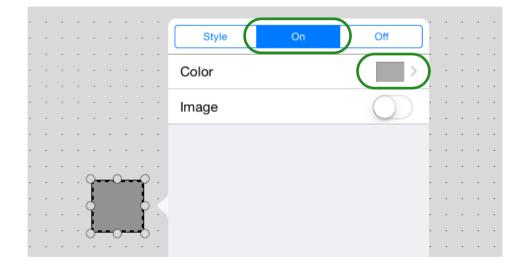


- * ボタンの機能によって設定画面は異なります。詳しくは「パラメーター のアサイン」をご覧ください。
- 6. [Done]をタップすると、アサイン完了です。
 - * パラメーターのアサインが完了していないことを示す **②** アイコンは、 パラメーターがアサインされたことで消えます。

3. ボタンOn/Offの表示を設定する

OnとOffでボタン面の色を替えて、設定状態がわかるように しましょう。

- $m{1}$. ボタンをタップしてコンテキストメニューを表示させ、 [Design]をタップします。
- 画面上部の[On]タブをタップします。
 下記画面が表示されます。



- 3. [Color]欄をタップして、カラー設定画面を表示させます。[Color]タブと[Preset]タブを切り替えて、好みの方法でOn時のボタン面の色を設定します。
 カラー設定について詳しくは「カラーの設定」をご覧ください。
- **4.** [<]をタップして前の画面に戻ります。
- 5. 同様に、[Off]タブでOff時のボタン面の色も設定します。

OnとOffでボタン面の色が変わるか確認しましょう。

- 6. オペレーションモードボタン ▼ をタップして "Control Mode" へ切り替えます。
- 7. ボタンをタップして、ボタン面の色が設定どおりに切り替わることを確認します。
- オペレーションモードボタン
 でタップして "Design Mode" へ切り替えます。

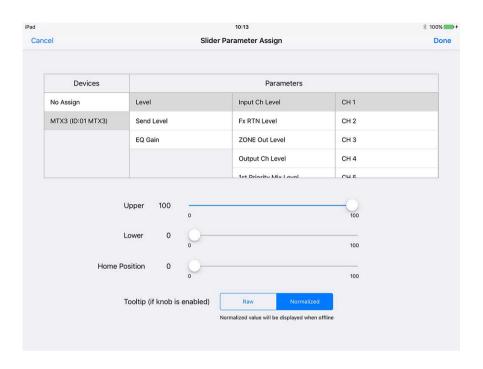
ボタン面の色以外にも、ボタンの角の丸みや枠のデザインや 太さや色などを変更できます。詳しくは「ウィジェットのデ ザイン」をご覧ください。

4. スライダーを配置する

ボリュームをコントロールするスライダーを配置しましょう。

- 1. メニューバーのページエディットボタン \blacksquare をタップします。
- **2.** ウィジェットメニューでスライダーのアイコンをタップしてパネルに配置させ、好きな位置に移動します。
- **3.** コントロール対象のデバイスは、ボタンで登録したものと同じものとしますので、新たに登録はしません。もちろん別のデバイスを登録してもかまいません。
- スライダーをタップして、コンテキストメニューの [Parameter]をタップします。
 [Slider Parameter Assign]画面が表示されます。
- 5. [Devices]欄にある「2. デバイスとパラメーターを設定する」の手順1で登録した"デバイス名"をタップします。

アサインできるパラメーターが一覧表示されます。 このスライダーでコントロールしたいボリュームパラメー ターを選択します。たとえばチャンネル1入力のレベルであれば、次の画面のように設定します。



^{* [}Upper]、[Lower]、[Home Position]、[Tooltip]について詳しくは 「パラメーターのアサイン」をご覧ください。

6. [Done]をタップすると、アサイン完了です。

コントロールモードへ移動し、スライダーを動かして確認しましょう。

また、スライダーもボタン同様デザインや色などを変更できます。詳しくは「ウィジェットのデザイン」をご覧ください。

5. テキストパネルを配置する

長方形(Rectangle:以降レクタングルと呼びます)を配置し、その上に操作ガイドや注意事項、ボタンやスライダーの名称などのテキストを置きましょう。

- * レクタングルにはデバイスの設定やパラメーターのアサインはありません。
- 1. メニューバーのページエディットボタン $rac{1}{1}$ をタップします。
- 2. ウィジェットメニューでレクタングルのアイコンをタップしてパネルに配置させ、好きな位置およびサイズに変更します。
- **3.** レクタングルをダブルタップします。 表示されるキーボードでテキストを入力し、レクタングル以外の場所をタップして入力を終了します。
 - *日本語も入力できます。

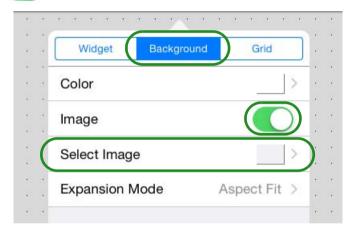


* フォントの種類やサイズなどを変更する場合、レクタングルをタップして、コンテキストメニューの[Text]をタップしてください。

6. 背景を設定する

パネル背景に画像を配置しましょう。あらかじめiPadの「写真」アプリの中に背景に使う画像を入れておきます。

- 1. メニューバーのページエディットボタン \blacksquare をタップします。
- 2. [Background]をタップして、[Image]スイッチを $On(\bigcirc)$ にします。



3. [Select Image]欄をタップし、表示される画面で[Photos]タブをタップします。

iPadの「写真」アプリ内の画像データが表示されます。PV TouchのDocumentsフォルダーの「Images」フォルダー内の 画像データを使う場合は、[Imported] タブをタップしてくださ い。

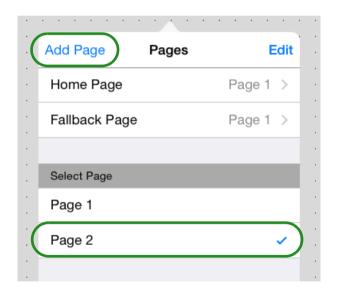
4. 背景にする画像を選ぶとすぐに背景に配置されます。 [Expansion Mode]で背景への画像のフィットのさせ方を設定できます。→イメージの設定

これでまずコントロールパネルが1ページできました。

操作対象システムのコントロールの際、会場の用途やセッティングの違いにより、複数のコントロールパネルを使い分ける場合が多くあります。以降で複数のページの扱い方を解説するために、ここでもう1ページ作成します。

7. もう1ページ作成する

- 1. メニューバーのページマネージメントボタン **■** をタップします。
- 2. [Add Page]をタップすると、新規ページ名の入力画面が表示されます。ページ名を入力し[Done]をタップすると、新規ページが用意されますので、ウィジェットを配置して制作してください。
 - * 制作済みのPage 1を複製(Duplicate)して、それを編集してもかまいません。

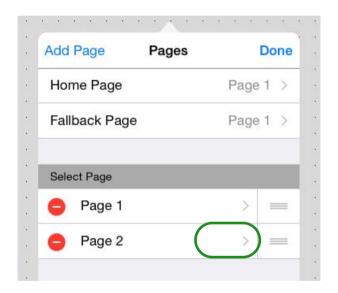


コントロールモードでは、メニューバーのページ切り替え用のアイコンをタップすることで、表示させるページを切り替えることができます。

8. ページにアクセスコードを設定する

Page 1は認証なし、Page 2はパワーユーザーコードによる認証と、アクセス制限を設定しましょう。

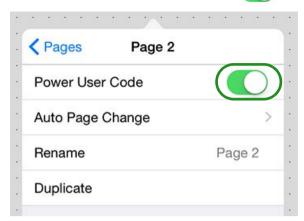
メニューバーのページマネージメントボタン ■ をタップし、[Edit]をタップします。
 ページマネージメント画面が表示されます。



[Select Page]の[Page 2]欄の[>]をタップします。
 Page 2の設定画面が表示されます。

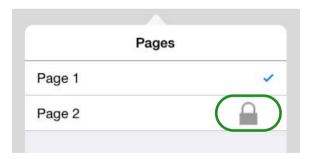
^{*} Home Page、Fallback Pageについては、「ページの管理」をご覧ください。

3. [Power User Code]スイッチをOn(\bigcirc)にします。



4. コントロールモードへ移動し、ページセレクションボタン**目** をタップします。

Page 2に認証が設定されていることを示す Prイコンが表示されることを確認します。



* 新規作成ファイルではパワーユーザーコードは未設定(空)です。「Edit Power User Code」で設定します。

9. スクリーンロックを設定する

スクリーンロックは、最後の操作から一定時間経過したあと に、操作権限がまったくない人による操作を防ぐ機能です。

- * スクリーンロックの設定は、デザインモード/コントロールモードどちらでもできます。
- 1. メニューバーのセットアップボタン \bigcirc をタップし、 [Screen Lock] をタップします。



- [Enable]をOn()にし、必要に応じて[Unlock Code]、[Time]を設定します。また、[Select Image]、 [Expansion Mode]で、スクリーンロック時に表示させる画像を設定することもできます。
 - * 詳しくは「Screen Lock」をご覧ください。

10. 設定ファイルを完成させる

コントロールパネルの設定が完成しました。 最後に以下の項目を設定/確認します。

- ・管理者コード(Administrator Code)
- ・制作時の情報の記録
- ・使用した画像ファイル
- 1. 管理者コードを設定します。新規作成ファイルでは未設定(空)ですが、納品する際は必ず管理者コードを設定します。設定方法は「Edit Administrator Code」をご覧ください。
- 2. 設定ファイルの制作履歴を[Information]に記録します。 制作の日付やハードウェア/ソフトウェア環境など、または不具合が発生した際の連絡先など。記録方法は「コントロールパネルの情報」をご覧ください。
- 3. 必要に応じてKIOSK用設定ファイルとしてエクスポート を実行してください。

11. 設定ファイルを別のiPadに送信する

納品先iPadに設定ファイルを送信します。

- * 納品先iPadにはあらかじめの本アプリケーションまたはKIOSKをインストールしておきます。
- 1. メニューバーのファイルマネージメントボタン \Box 、またはC たはC に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に C に
- **2.** 納品する設定ファイルをロングタップしてコンテキストメニューを表示させ、[共有]をタップします。

Mail、AirDrop、Copy to P.V.Touch-KやFile Transferのアイコンが表示されます。メール添付やAirDrop経由、またはiPad 同士の直接の通信(P2P)で納品先iPadへ設定ファイルを渡します。納品先iPadのDocumentsフォルダーに保存されます。詳しくは「共有」をご覧ください。

12. iPadをコントローラーパネル専用にする

iPadを操作対象システムのコントローラー専用とする方法 (アクセスガイド)を紹介します。必要に応じてこの設定をしてください。

- * アクセスガイドを設定すると、iPadで使えるAppが本アプリケーションだけになり、ホームボタンをクリックしたり、ホームインジケーターをスワイプしても他のアプリケーションを選択できないようになります。
- 1. 本アプリケーションまたはKIOSKを起動させ、ファイルをタップします。
- [Auto-load this file on next launch]スイッチをOn(())にします。
- 3. iPadのホーム画面で[設定]アイコンをタップし、設定メニューの[一般]をタップします。
- **4.** 一般メニューの[アクセシビリティ]→[アクセスガイド]を選び、アクセスガイドのスイッチをOn(())にします。
- 5. 本アプリケーションまたはKIOSKを起動後、ホームボタンを3回クリックします。

ホームボタンがない機種では、トップボタンを3回クリックしてください。

本アプリケーション(コントロールパネル)Homepageが表示されます。画面タッチを無効にしたい場所があれば、指でその範囲を描きます。また、ハードウェアボタンを無効にしたり、時間制限を設定することもできます。

6. 画面右上の[開始]をタップすると、パスコードの設定画面が表示されます。iPadのパスコードを設定すると、アクセスガイドが有効になります。

アクセスガイド有効時は、ホームボタンをクリックしたり、 ホームインジケーターをスワイプしても本アプリケーション (コントロールパネル)は終了しません。 終了するにはホームボタンまたはトップボタンを3回クリッ

クし、パスコードを入力してアクセスガイドを終了させます。

以上で基本的なワークフローの解説は終了です。

iPadを起動し、制作したコントロールパネルから操作対象システムのコントロールができることを確認してください。

* 本アプリケーションまたはKIOSKを起動すると、自動的にWi-Fiアクセスポイント、操作対象システムをサーチし、接続されます。

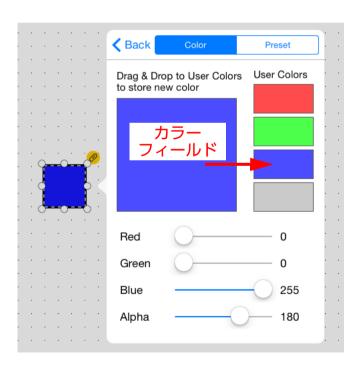
接続方法の詳細については「接続前の準備」を参照してください。

共通の設定操作

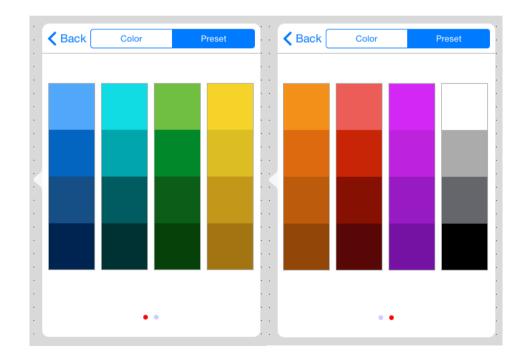
本アプリケーション操作中に、たびたび登場する設定画面/ 操作画面について解説します。表示内容が多少異なっていて も基本的な操作は同じです。

■ カラーの設定

[Color] **タブ**では4色の配分を下部のスライダーで調整し、 好みの色を設定します。作成した色(カラーフィールド)を右 側の4つのパレットのどれかにドラッグすることで登録でき ます。



[**Preset**] **タブ**では8色×4段階濃度の32色から好みの色を選択できます。

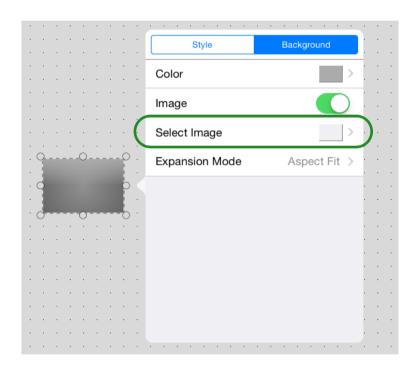


■ イメージの設定

ウィジェットや背景などにイメージを配置する際、以下の設 定画面が表示されます。

* Widget→Imageではダイレクトに右図画面が表示されます。

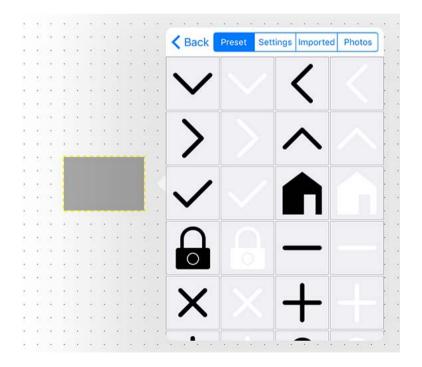
[Select Image]欄をタップして表示されるソース画像グループからイメージを選択します。



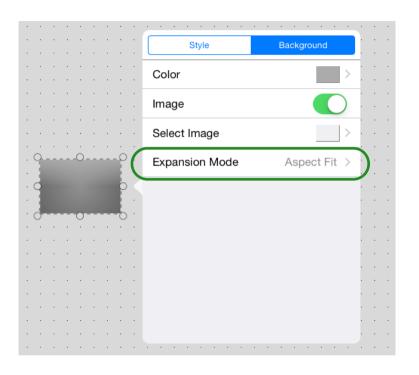
表示されるソース画像には以下の4種類があります。

- Preset: 本アプリケーションのプリセット画像
- **Settings:** AirDropやMailなどによって送られた設定ファイル内に保存された画像*。
 - * [Delete]→画像選択→ゴミ箱アイコンで削除できます。
- Imported: iTunesなどによって「Images」フォルダー内に 保存された画像ファイル
- Photos: iOSの「写真」アプリの画像ファイル

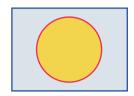
タブでグループを切り替え、お好みの画像を選び[Back]で左図の画面に戻ります。



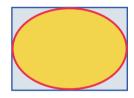
[Expansion Mode] 欄をタップして表示されるメニューから、表示領域へのイメージの配置方法を選択します。



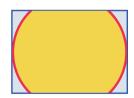
• None: 拡大縮小せず、領域中央に配置



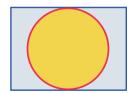
• Full: 高さ、幅ともに領域いっぱいにフィットするように拡大縮小して表示



• Aspect Fill: 高さ、幅のどちらか短い方が領域いっぱいにフィットするように拡大縮小して表示



• Aspect Fit: 高さ、幅のどちらか長い方が領域いっぱいにフィットするように拡大縮小して表示



メニューバーについて

画面左上にはいずれのモードでもメニューボタン(**▲** または **▶**)が表示されます。

メニューボタンをタップすることで、メニューバーの表示/ 非表示が切り替わります。

- * コントロールモードでは、メニューを表示させる際に管理者コード/パワーユーザーコードのいずれかでの認証が必要になります。
- * コントロールモードでは、メニューボタンの無操作状態が一定時間経過したらメニューバーを非表示にできます。メニューバーを非表示にするまでの時間はTime Until Menu Closesで指定します。
- * メニューボタンを隠すことも可能です。(Transparent Menu Button)

• デザインモード



・コントロールモード



1 ファイルマネージメントボタン

ファイルを一覧表示します。新規ファイル作成は、この一覧表示画面上の[+]ボタンで行います。→設定ファイルの管理

② オペレーションモードボタン ▼

コントロールモードとデザインモードを切り替えます。新規にファイルを作成する場合およびファイルを管理者コードで認証した場合にこのボタンが表示されます。

- * パワーユーザーコードで認証してコントロールモードに入った場合、このボタンは表示されません。
- ③ アンドゥボタン 뜇 [デザインモードでのみ表示]

直前に実行した操作を取り消して、その操作を実行する前の状態に戻します。最大20操作まで記憶します。

対象となる操作は以下です。

ウィジェット(Widget)の新規追加、移動、サイズ変更、削除、ペースト、重なりの前後の設定

4 リドゥボタン [デザインモードでのみ表示]

アンドゥボタンで取り消した操作を実行して、取り消す前の状態に戻します。

⑤ マルチセレクトボタン 🦳 [デザインモードでのみ表示]

ウィジェット(Widget)を選択するときに単数選択にするか複数選択にするかを切り替えます。→ウィジェットの複数選択

⑥ ページエディットボタン [デザインモードでのみ表示]

パネルをデザインする際のウィジェットの選択、およびバックグラウンド、グリッドの設定メニューを表示します。→カスタムパネルの制作

- 3 ページセレクションボタン [コントロールモードでのみ表示]表示させるページを切り替えます。→ページの切り替え
- 9 デバイスマネージメントボタン「デザインモードでのみ表示]

本アプリケーションでコントロールする操作対象システムのデバイスを登録します。モニターデバイスもここで指定します。 →コントロールする機器の登録

🛈 セットアップボタン 🗘

す。→ページの管理

認証コードの変更、スクリーンロックの設定、メニューバーの表示時間、メニューボタンの表示/非表示切り替えなどを設定します。→コントロールパネルの設定

11 インフォメーションボタン 11

本アプリケーションのバージョン情報および選択中の設定ファイルの情報を表示します。また設定ファイルの情報を入力します。→コントロールパネルの情報

ファンクションガイドの表示/非表示を切り替えます。

設定ファイルの管理 - ファイルマネージメントボタン

メニューバーのファイルマネージメントボタン 、または ProVisionaire Touchのアイコンをタップすると、本アプリケーションの設定ファイルが一覧表示されます。

ProVisionaire Controlで作成したコントロールファイルを一覧表示から選択できます。

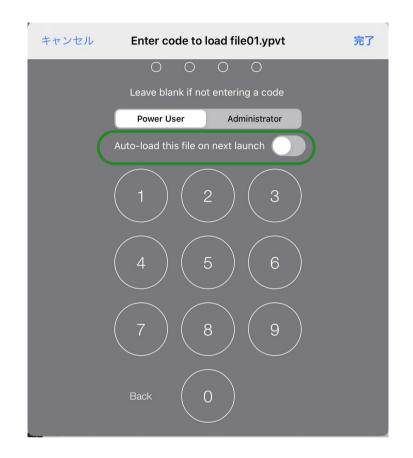
* 縦型のコントローラー画面など、ProVisionaire Controlのみでデザイン可能な機能を使用したい場合は、ProVisionaire Controlからエクスポートし、KIOSKでロードする必要があります。

ファイルアイコンをタップすると、ファイルが開きます。 ファイルアイコンをロングタップすると、ファイルのコンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューを 使って設定ファイルのコピー、複製、移動、削除、共有などを行います。

● 設定ファイルをタップ

選択した設定ファイル(拡張子 .ypvt)を読み込みます。 読み込む際、パワーユーザー (Power User)コードもしくは 管理者(Administrator)コードでの認証画面が表示されます。 また同画面中の[Auto-load this file on next launch]スイッ チをOnに設定しておくと、次回起動時にこの設定ファイル が自動的に開きます。1つのファイルのみを使用する案件で は、このスイッチを有効にしておくことでユーザーによる ファイル選択の操作を省くことができます。

* 新規作成ファイルでは、パワーユーザーコードおよび管理者コードは未設定(空)です。認証画面ではコードを入力せずに、Power User/Administratorだけを選択し[完了]をタップします。





●コピー

選択した設定ファイルをコピーバッファにコピーします。 貼り付ける場合は、ブラウズのファイルなどが無いところを ロングタップして[ペースト]を実行してください。

* 同名ファイルが存在する場合は "2"、"3"…と自動的に数字が増えます。

● 複製

選択した設定ファイルを複製します。[複製]をタップすると、選択ファイル名の末尾に"1"が追加されたファイル名で複製されたファイルができます。

* 同名ファイルが存在する場合は "2"、"3"…と自動的に数字が増えます。

● 移動

選択した設定ファイルを移動します。[移動]をタップすると移動のダイアログが表示され、移動先を選択したあと、右上の[移動]をタップすることで選択した移動先に設定ファイルが移動します。

●削除

選択した設定ファイルを削除します。

● 情報

選択した設定ファイルのプロパティが開きます。

●タグ

選択した設定ファイル名の左側に選択したタグを表示します。

● 名称変更

選択した設定ファイル名を変更します。

●共有

選択した設定ファイルを別のコンピューターやタブレットなどに渡す機能です。

AirDropの場合:[AirDrop]アイコンをタップすると、iOSのAirDrop機能が働き、宛先リストが表示されます。目的の宛先を選び送信します。

受信側で本アプリケーションを開くアプリに指定します。受信ファイルはDocumentsフォルダーに保存されます。

* AirDropに対応していないiOS端末は宛先一覧に表示されません。

メールの場合: [メール]アイコンをタップすると、メールアプリが立ち上がり、選択したファイルを添付した新規メールがセットアップされます。目的の送信先へメールを送信します。

メール受信側が本アプリケーションをインストールしている 場合は、受信ファイルをタップし本アプリケーションを開く アプリに指定します。受信ファイルはDocumentsフォルダーに保存されます。

File Transferの場合: [File Transfer]をタップすると、同一ネットワークに接続されている宛先リストが表示されます。目的の宛先を選び送信します。

●コメント

選択した設定ファイルに対するコメントを表示します。

* コメントの入力/編集は設定ファイルを開いてインフォメーションボタンの [About File]メニューの[Comment]で行います。

● 管理者コメント

選択した設定ファイルに対する管理者コメントを表示します。

* コメントの入力/編集はファイルをロードしインフォメーションボタンの [About File]メニューの[Administrator Comment]で行います。

● エクスポート

KIOSK用設定ファイルを作成します。本アプリケーションではKIOSK用設定ファイルを読み込んだり編集することはできません。変更する場合は設定ファイルを編集して、再度エクスポートしてください。

[Enable File Operations for Power User.]をオフのままにすると、ファイルを開くときにAdministrator Codeが要求されます。

ウィジェットの複数選択ーマルチセレクトボタン

メニューバーのマルチセレクトボタン をタップすると、ウィジェット(Widget)をシングルセレクトモード(単数選択)にするかマルチセレクトモード(複数選択)にするかを切り替えられます。

単数選択になっているか複数選択になっているかはマルチセレクトボタンの色で識別できます。

マルチセレクトボタン	モード	
(自)	シングルセレクトモード	
(緑)	マルチセレクトモード	

複数選択の状態で以下の操作をすると、複数のウィジェット を選択した状態にできます。

- ウィジェットがないところでウィジェットを囲むように画面をなぞる。
 - → 囲まれた範囲に入っているウィジェットが選択状態になります。
- ウィジェットをタップする。
 - → タップしたウィジェットが選択状態になります。
- * 複数選択している状態で、デザインやパラメーターを変更したりテキストを入力したりすると、同種のウィジェットに反映されます。

複数選択の状態で以下の操作をすると、選択が解除されます。

- 選択されているウィジェットをタップする。
 - → タップしたウィジェットの選択が解除されます。
- ウィジェットがないところをタップする。
 - → すべてのウィジェットが選択されていない状態になります。

カスタムパネルの制作ーページェディットボタン

メニューバーのページエディットボタン (デザインモードで表示)をタップすると、カスタムパネルで使用するウィジェット/バックグラウンド/グリッドのメニューが表示されます。これらを使って、カスタムパネルをデザインします。

Widget(ウィジェット)

カスタムパネルのパーツをタップして配置したり、フリップで他のパーツがある画面に切り替えます。

• Button(ボタン)

スイッチ用のウィジェットです。On/Off、Inc/Dec、[Preset] のリコールなど、パラメーター切り替えをアサインできます。 また、ページの切り替えをアサインすることもできます。

• Slider(スライダー)

フェーダー用のウィジェットです。連続した数値変化をコントロールできます。

• Value(バリュー)

Sliderの数値を表示するためのウィジェットです。Sliderの ウィジェットをタップしなくても現在の数値を確認できま す。

• Meter(メーター)

指標表示用のウィジェットです。連続した数値変化を可視化できます。



• Indicator(インジケーター)

指標表示用のウィジェットです。数値がしきい値を上回ると 点灯、しきい値を下回ると消灯します。

• Rectangle(レクタングル)

ボタンやスライダーの名称や、タイトル、コメントなどを配置するのに便利な四角形のパーツです。テキストの他にロゴなどのイメージを貼り付けることもできます。

- * パラメーターのアサインはできません。
- Image(イメージ)

アイコンや模様などの画像を配置します。iOSの「写真」アプリのライブラリの画像を配置することもできます。

- * パラメーターのアサインはできません。
- PDF(ピーディーエフ)

PDFファイルを表示するためのウィジェットです。 Rectangleでは表示しきれないマニュアルを表示するなどに 使用します。配置するときに表示するPDFファイルを選択し ます。ファイルはデザインモードで変更できます。

- SD Play Info/Play Info(プレイインフォ) 選択されているコンテンツに関する情報を表示するための ウィジェットです。
- SD Transport/BD Transport/Transport (トランスポート)

選択されているコンテンツをコントロールするためのウィジェットです。



• SD Track List/Track List(トラックリスト)

再生するコンテンツを選択するためのウィジェットです。 タップするとリストがポップアップします。機器がオンラインのときにリストが表示されます。

• Source&PGM(ソース アンド プログラム)

MusicCast機器の入力ソースやサウンドプログラムを選択するためのウィジェットです。タップするとリストがポップアップします。

• Album Art(アルバムアート)

MusicCast機器で再生している曲に対応した画像を表示する ためのウィジェットです。

• Disklavier(ディスクラビア)

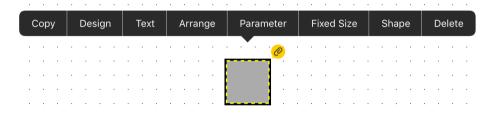
Disklavier ENSPIRE用のウィジェットです。自動演奏の再生などをコントロールします。Disklavier ENSPIREがオンラインのときに操作子が表示されます。



■ ウィジェットの編集

パネル上のウィジェットをタップすると、コンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューを使ってウィジェットのデザインをアレンジしたりパラメーターをアサインしたりします。

* ウィジェットによっては表示されない項目があります。



● Copy(コピー)

[Copy]をタップ後、ペーストしたい位置でタップすると [Paste] コンテキストメニューが表示されます。

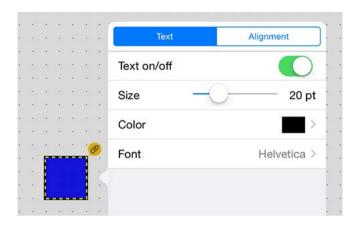
● Design(デザイン)

ウィジェットのデザインを変更します。 ウィジェットの種類により表示されるダイアログは異なりま す。詳しくは「ウィジェットのデザイン」をご覧ください。

● Text(テキスト)

ウィジェット上にテキストを配置します。

* スライダーのコンテキストメニューには表示されません。



[Text]タブ

Text on/off: テキストの表示/非表示を切り替えます。

Size: テキストのサイズを設定します。

Color: テキストの色を設定します。→カラーの設定

Font: テキストのフォント(文字種)を設定します。OSで

持っているフォントのリストが表示されます。

* テキストを入力するときは、ウィジェットをダブルタップしてください。

[Alignment]タブ

テキストの配置位置(上下左右)を設定します。

Top Left	Top Center	Top Right
Center Left	Center Center	Center Right
Bottom Left	Bottom Center	Bottom Right

● Arrange(アレンジ)

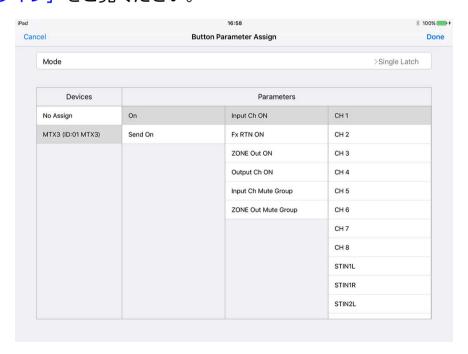
ウィジェット同士の重なりの前後を設定します。 選択中のウィジェットに対して、最前面に移動(Bring to Front)/1つ上の面に移動(Bring Forward)/1つ下の面に移動(Send Backward)/最背面に移動(Send to Back)の動作をします。

● Parameter(パラメーター)

ウィジェットに対して、それを操作したときにコントロール するパラメーターをアサインします。

* レクタングル、イメージおよびPDFのコンテキストメニューには表示されません。

パラメーターのアサイン方法については「パラメーターのア サイン」をご覧ください。



● Alignment(アライメント) [複数選択時のみ表示]

選択しているウィジェットの配置位置を設定します。

Left: ウィジェットの左端をそろえます。

Right: ウィジェットの右端をそろえます。

Horizontal centering: ウィジェットの中心の左右位置を そろえます。

Horizontal equal: ウィジェットを左右方向に等間隔に整列します。

Top: ウィジェットの上端をそろえます。

Bottom: ウィジェットの下端をそろえます。

Vertical centering: ウィジェットの中心の垂直位置をそ

ろえます。

Vertical equal: ウィジェットを上下方向を等間隔に整列します。

● Fixed Size(フィクストサイズ)

ウィジェットのサイズを固定する(True)/固定しない(False)を切り替えます。移動しようとドラッグしたら拡大されたなどの、意図しない動作を防ぐための設定です。

● Shape(シェイプ)

ウィジェットの形状を設定します。

Rectangle: 四角形

Ellipse: 円形

Polygon: 多角形

Polygonを選択すると、点を移動する(Move Point)/点を追加する(Add Point)/点を削除する(Remove Point)が選択できるようになります。Add PointまたはRemove Pointが選択されている状態でウィジェットをタップすると、そこに点を追加またはそこの点を削除します。

● Delete(デリート)

ウィジェットを削除します。

Background(バックグラウンド)

ページ背景用の設定です。



● Color(カラー)

[Color]欄をタップして表示される画面で背景の色を設定します。→カラーの設定

● Image(イメージ)

このスイッチをOnにすると、画像指定(Select Image)と拡大設定(Expansion Mode)の項目が表示され、背景の上に画像を配置できます。→イメージの設定

Grid(グリッド)

ページの背景の上にグリッドを表示させます。 グリッドをOnにしておくと、ウィジェットを配置した際、 グリッドに合わせてきれいにレイアウトされます。

● Snap To Grid(スナップトゥグリッド)

このスイッチをOnにすると、グリッドが有効になり、ウィジェット左上のポイントがグリッドに従います。 ウィジェットを拡大/縮小する際は、タップして拡大/縮小したポイントがグリッドに従います。

● Dot Color(ドットカラー)

グリッドのドットの色を変えることができます。

● Cell Width(ドット間隔)

グリッドのドット間隔を設定できます。



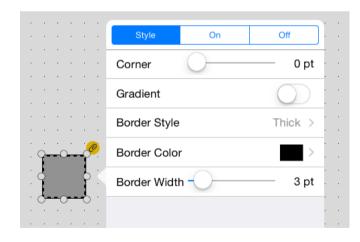
ウィジェットのデザイン

パネル上に配置したウィジェットのデザインを変更する方法 を解説します。

まず変更したいウィジェットをタップしてコンテキストメニューを表示させます。メニューから[Design]をタップすると、それぞれのウィジェットのデザイン変更用のダイアログが表示されます。



■ Button(ボタン)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: ボタン面にグラデーション効果を付けます。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[On]タブ

Color: ボタンOn時のボタン面の色を設定します。→カラーの設定

Image: ボタン面にアイコンや模様などのイメージを配置します。このスイッチをOnにすると、Select Imageと

Expansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

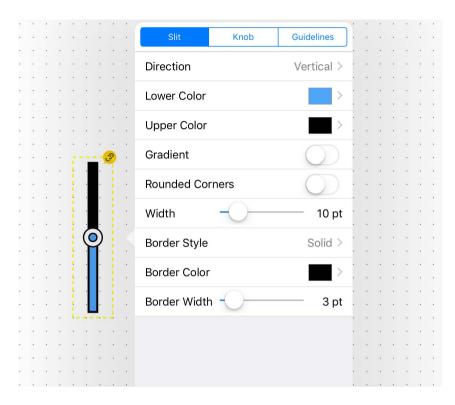
Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定をします。

* 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

[Off]タブ

ボタンOff時のボタン面を設定します。設定項目は[On]タブと同じです。

■ Slider(スライダー)の場合



[Slit]タブ

Direction: スライダーの向き(Vertical/Horizontal 1/

Horizontal 2)を設定します。

Lower Color: 現在値以下のメーター内部の色を設定しま

す。→カラーの設定

Upper Color: 現在値より上のメーター内部の色を設定し

ます。→カラーの設定

Gradient: グラデーション効果を付けます。

Round Corners: メーターの角に丸みを付けます。

Width: スリットの横幅を設定します。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Knob]タブ

Style: ノブのスタイル(None/Circle/Ring/Fader A/Fader B/Fader C/Fader D)を設定します。

* None(ノブなし)に設定した場合は操作できません(メーター表示のみ)。

Tooltip: ノブ操作時のパラメーター値の表示/非表示を切り替えます。

* 値の表示をRaw(即値)かNormalized(正規化値)か切り替えることができます。→パラメーターのアサイン

Width: ノブのサイズを設定します。

[Guidelines]タブ

Type: ガイドライン(目盛)のスタイル(None/Normal-

ized/0 dB/10 dB)を設定します。

Position: ガイドラインの表示位置(Left/Right/Full)を設

定します。

Color: ガイドラインの色を設定します。→カラーの設定

■ Value(バリュー)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: バリュー面にグラデーション効果を付けます。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Background]タブ

Color: バリュー面の色を設定します。→カラーの設定

Image: バリュー面にアイコンや模様などのイメージを配置します。このスイッチをOnにすると、Select Imageと

Expansion Modeの項目が表示されます。

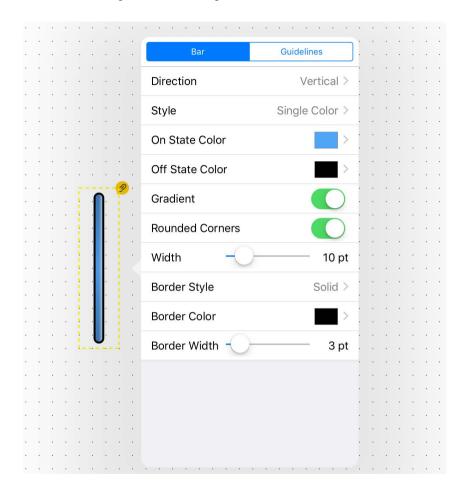
Select Image: 画像を選択します。

Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定

をします。

^{*} 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ Meter(メーター)の場合



[Bar]タブ

Direction: メーターの向き(Vertical/Horizontal 1/

Horizontal 2)を設定します。

Style: メーター内部の表示方法を選択します。

On State Color: 現在値以下のメーター内部の色を設定し

ます。→カラーの設定

Off State Color: 現在値より上のメーター内部の色を設定

します。→カラーの設定

Gradient: グラデーション効果を付けます。

Round Corners: メーターの角に丸みを付けます。

Width: メーターの横幅を設定します。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Guidelines]タブ

Type: ガイドライン(目盛)のスタイル(None/

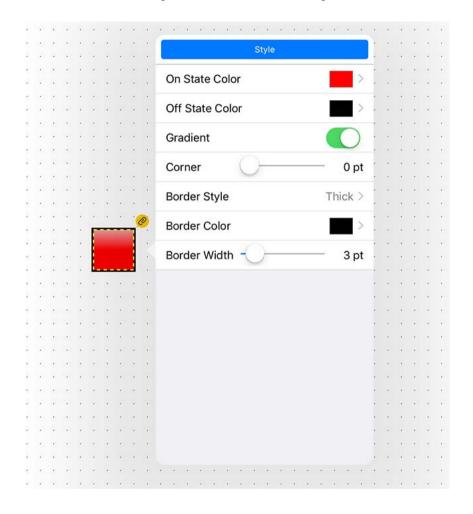
Normalized/0 dB/10 dB)を設定します。

Position: ガイドラインの表示位置(Left/Right/Full)を設

定します。

Color: ガイドラインの色を設定します。→カラーの設定

■ Indicator (インジケーター)の場合



[Style]タブ

On State Color: 「Parameter」で設定したしきい値以上になったときのインジケーター内部の色を設定します。 → カラーの設定

Off State Color: 「Parameter」で設定したしきい値未満になったときのインジケーター内部の色を設定します。 → カラーの設定

Gradient: インジケーター面にグラデーション効果を付け

ます。

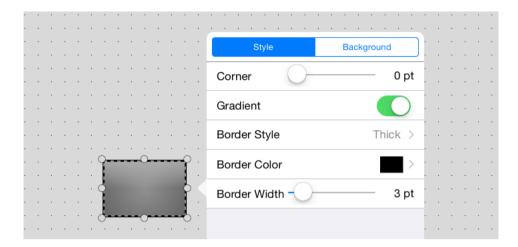
Corner: 角の丸みを設定します。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

■ Rectangle(レクタングル)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: レクタングル面にグラデーション効果を付けま

す。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Background]タブ

Color: レクタングル面の色を設定します。→カラーの設定 **Image:** レクタングル面にアイコンや模様などのイメージ を配置します。このスイッチをOnにすると、Select ImageとExpansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定をします。

^{*} 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ Image(イメージ)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: 画像の背面にグラデーション効果を付けます。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Background]タブ

Color: イメージ面の色を設定します。→カラーの設定

Image: イメージ面にアイコンや模様などのイメージを配置します。このスイッチをOnにすると、Select Imageと

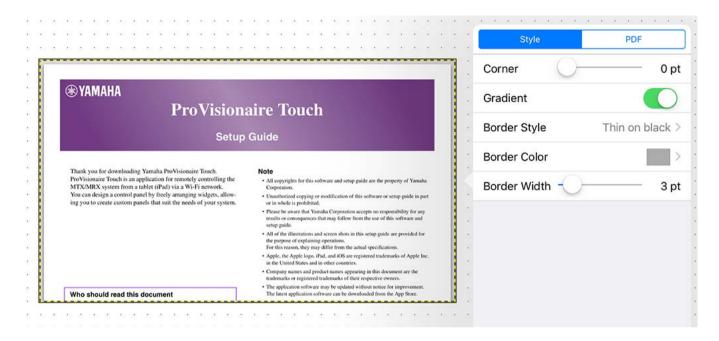
Expansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定をします。

* 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ PDF(ピーディーエフ)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: PDFの背面にグラデーション効果を付けます。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

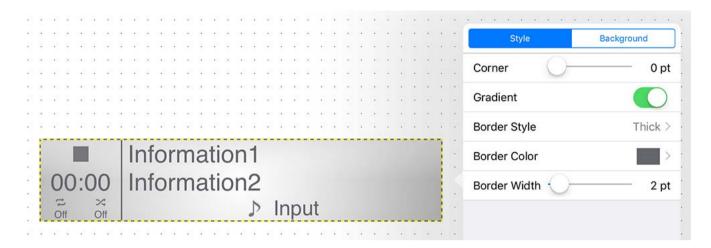
[PDF]タブ

Select PDF: P.V. TouchのDocumentsのPDFsフォルダー内あるいはMailやAirDropで送られたPDFファイルを設定します。

Background Color: PDFが表示されていないときの色を 設定します。→カラーの設定

Pinch to Zoom: スイッチをOnにするとPDF上でピンチ操作ができるようになります。

■ SD Play Info/Play Info(プレイインフォ)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: プレイインフォ面にグラデーション効果を付けます。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Background]タブ

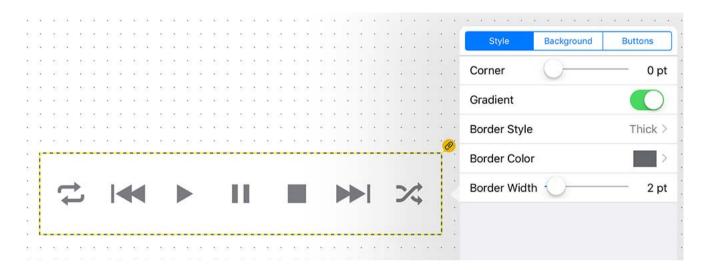
Color: プレイインフォ面の色を設定します。→カラーの設定 **Image:** プレイインフォ面にアイコンや模様などのイメージを配置します。このスイッチをOnにすると、Select ImageとExpansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定をします。

^{*} 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ SD Transport/BD Transport/Transport(トランスポート)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: トランスポート面にグラデーション効果を付けます。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Background]タブ

Color: トランスポート面の色を設定します。→カラーの設定

Image: トランスポート面にアイコンや模様などのイメージ

を配置します。このスイッチをOnにすると、Select ImageとExpansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定

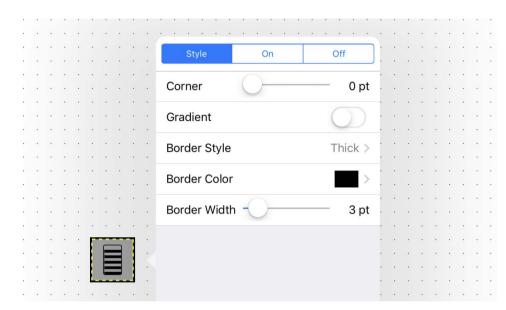
をします。

[Buttons]タブ

Color: トランスポートのボタンの色を設定します。→カラー の設定

* 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ SD Track List/Track List(トラックリスト)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: トラックリスト面にグラデーション効果を付けま

す。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[On]タブ

ウィジェットをタッチしているときの設定をします。

Color: トラックリストOn時のトラックリスト面の色を設

定します。→カラーの設定

Image: トラックリスト面にアイコンや模様などのイメージを配置します。このスイッチをOnにすると、Select ImageとExpansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

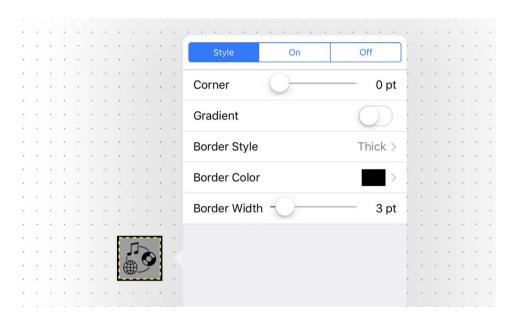
Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定をします。

[Off]タブ

ウィジェットをタッチしていないときの設定をします。設 定項目は[On]タブと同じです。

^{*} 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ Source&PGM(ソース アンド プログラム)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: ソース面にグラデーション効果を付けます。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[On]タブ

ウィジェットをタッチしているときの設定をします。 Color: ソースOn時のソース面の色を設定します。→力

ラーの設定

Image: ソース面にアイコンや模様などのイメージを配置します。このスイッチをOnにすると、Select Imageと

Expansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

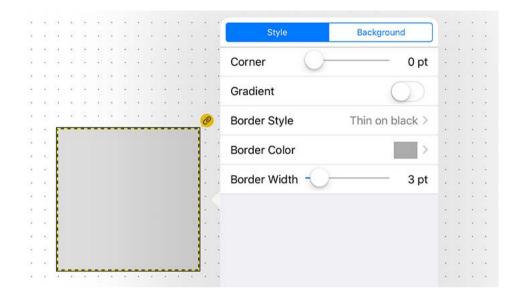
Expansion Mode: ウィジェット面に対する画像の拡大設定をします。

[Off]タブ

ウィジェットをタッチしていないときの設定をします。設 定項目は[On]タブと同じです。

^{*} 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ Album Art(アルバムアート)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: アルバムアート面にグラデーション効果を付けま

す。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Background]タブ

Color: アルバムアート面の色を設定します。→カラーの設定

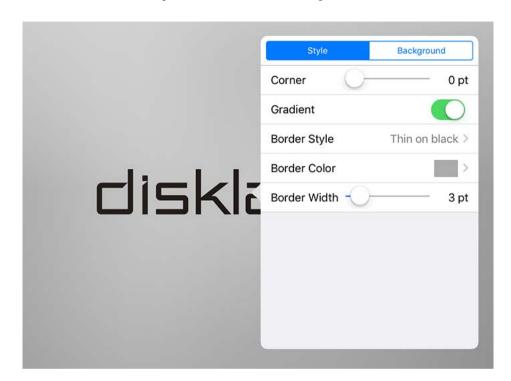
Image: アルバムアート面にアイコンや模様などのイメージを配置します。このスイッチをOnにすると、Select ImageとExpansion Modeの項目が表示されます。

Select Image: 画像を選択します。

Expansion Mode: ウィジェットに対する画像の拡大設定をします。

* 画像の選択方法については「イメージの設定」をご覧ください。

■ Disklavier(ディスクラビア)の場合



[Style]タブ

Corner: 角の丸みを設定します。

Gradient: ディスクラビア面にグラデーション効果を付けま

す。

Border Style: 外枠のスタイルを設定します。

Border Color: 外枠の色を設定します。→カラーの設定

Border Width: 外枠の太さを設定します。

[Background]タブ

Color: ディスクラビアがつながっていないときの色を設定

します。→カラーの設定

パラメーターのアサイン

パネル上に配置したウィジェットに対して、コントロールするパラメーターをアサインする方法を解説します。

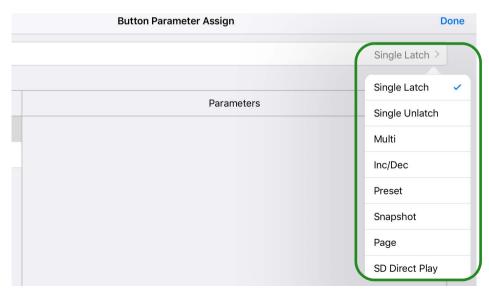
* パラメーターがアサインされていないウィジェットには 🔗 が表示されます。

ボタンへのアサイン

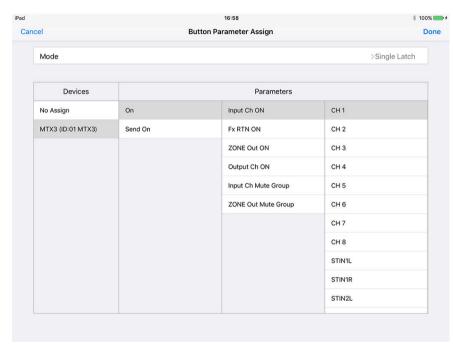
1. アサイン対象のボタンをタップしてコンテキストメニューを表示させ、[Parameter]をタップします。



2. [Button Parameter Assign]画面が表示されます。 [Mode]欄右端のボタンの機能名をタップして表示されるメニューから、ボタンの機能を選択します。

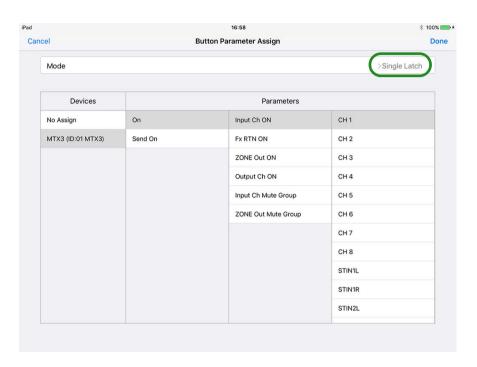


3. ボタンの機能に応じた設定画面が表示されます。 [Devices] と [Parameters] からアサインしたいパラメーターを選択し、[Done] をタップします。

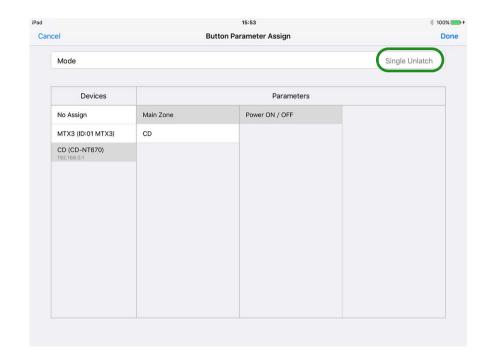


■ ボタンの機能(Mode)とその設定画面

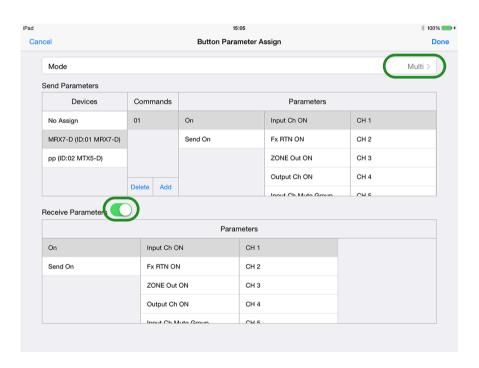
Single Latch: On/Off系パラメーターをアサインします。 On状態とOff状態を切り替えます。



Single Unlatch: トレイオープンのような、タップしている間だけ有効なパラメーターをアサインします。



Multi:複数のソース(入力チャンネル)を同時にOn/Offさせるなど、複数のパラメーターを個別にOn/Off設定します。
[Send Parameters]のリストで[Devices]を選び、[Commands]欄に[Add]で追加したコマンドごとにパラメーターをアサインします。設定できるコマンド数は最大16、つまり16パラメーターまでコントロールできます。
[Receive Parameters]のスイッチをOn()にすると、リストで選んだパラメーターを監視し、その状態をボタンの点灯表示に反映します。



Mode=Multiでの設定例) BGMソースを切り替える場合

動作:STINのOn/Offの組み合わせをボタンによって切り替える

STIN(ソース)	ボタン1	ボタン2	ボタン3
1 (CDプレイヤー)	ON	OFF	OFF
2 (コンピューター)	OFF	ON	OFF
3 (SDカード)	OFF	OFF	ON

• ボタン1 (CDプレイヤーからの入力を選択する)の設定

Send Parameters

Commands	Parameters			
01	On	Input Ch ON	STIN1L/R	ON
02	On	Input Ch ON	STIN2L/R	OFF
03	On	Input Ch ON	STIN3L/R	OFF

Receive Parameters

On	Input Ch ON	STIN11/R
On	iliput Cir Olv	31IIVIL/K

• ボタン2 (コンピューターからの入力を選択する)の設定

Send Parameters

Commands	Parameters			
01	On	Input Ch ON	STIN1L/R	OFF
02	On	Input Ch ON	STIN2L/R	ON
03	On	Input Ch ON	STIN3L/R	OFF

Receive Parameters

On	Input Ch ON	STIN2L/R

• ボタン3 (SDカードからの入力を選択する)の設定

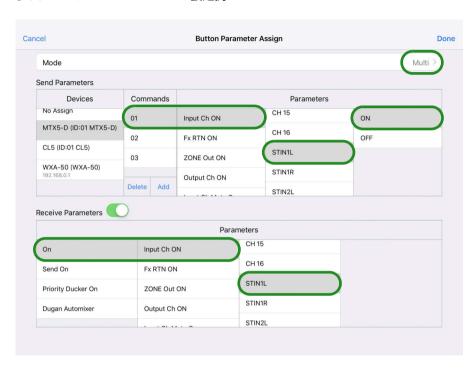
Send Parameters

Commands	Parameters			
01	On	Input Ch ON	STIN1L/R	OFF
02	On	Input Ch ON	STIN2L/R	OFF
03	On	Input Ch ON	STIN3L/R	ON

Receive Parameters

On	Input Ch ON	STIN3L/R

●ボタン1のCommands=01の設定例



●コントロールパネルデザイン例



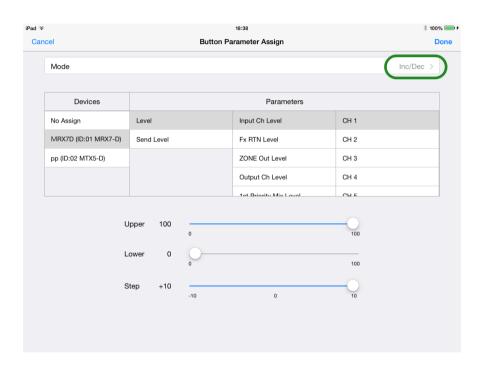
ボタン1

CD player

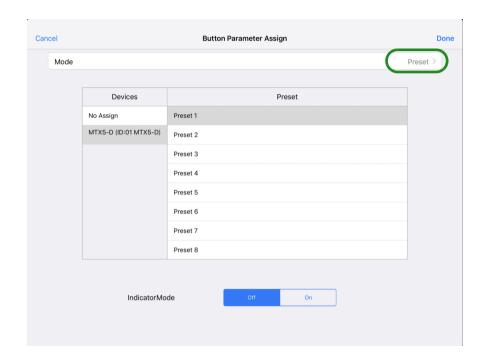
ボタン2 c

ボタン3 SD ca

Inc/Dec:デバイスに対してボリュームのアップ/ダウンのコマンドを発行します。[Upper]と[Lower]で増減の向きと変化幅を設定し、[Step]でその変化範囲の分割数を設定します。ボタンをタップするごとに[Step]1つ分の増加(または減少)のコマンドを発行します。

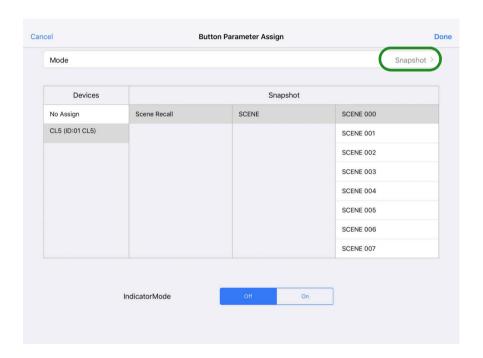


Preset: デバイスに対して[Preset]のリコールのコマンドを発行します。ボタンをタップすると、指定したデバイスに設定されているプリセットナンバーの[Preset]をリコールします。[Indicator Mode]を[On]にすると、現在リコールしているプリセットを画面上で確認できます。

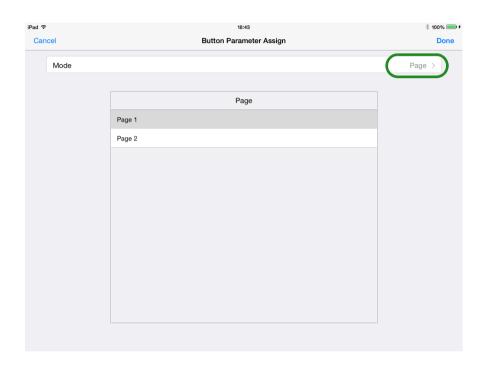


Snapshot: デバイスに対してスナップショットやシーンなどのリコールのコマンドを発行します。ボタンをタップすると、指定したデバイスに設定されているスナップショットナンバーやシーンンバーのスナップショットやシーンをリコールします。

[Indicator Mode]を[On]にすると、現在リコールしているスナップショットやシーンを画面上で確認できます。

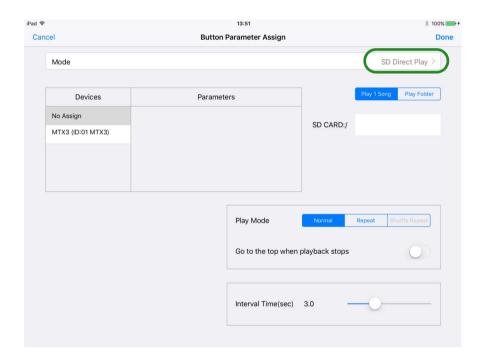


Page:本コントロールパネルの別のページに切り替えるコマンドです。[Page]欄に一覧表示される作成済みのすべてのページから選択します。



* 切り替えたページにパワーユーザー認証が設定されている場合は、ボタン操作時に認証ダイアログが表示されます。

SD Direct Play: SDカード内にある指定したオーディオファイルまたは指定したフォルダー内にあるオーディオファイルを再生/停止します。[Devices]に選択できるのはSDカードを搭載できるMTXまたはMRXのみです。設定内容についてはMTX-MRX Editorユーザーガイドの "「Setting」ダイアログ設定一覧"にある "[FUNCTION]が[SD Play]の場合"を参照してください。



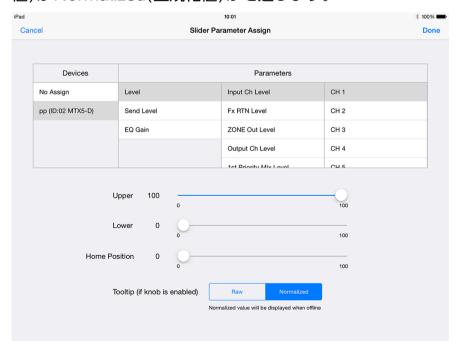
スライダーへのアサイン

1. アサイン対象のスライダーをタップしてコンテキストメニューを表示させ、[Parameter]をタップします。



2. [Slider Parameter Assign]画面が表示されます。

ボリュームなどの連続可変パラメーターをアサインできます。
[Upper]と[Lower]で変化幅を設定します。
[Home Position]でスライダーのホームポジションにオフセットを設定します。変化幅の途中に初期値が存在するパラメーター(例:EQのGain)をアサインする場合に使用します。
[Tooltip]で、ノブ操作時のパラメーター値の表示をRaw(即値)かNormalized(正規化値)かを選びます。



• MRX7-Dのパラメーターをアサインする場合

コントロール対象のデバイスがMRX7-Dの場合、ウィジェットの種類によって設定できるIndexが異なります。

Remote Control		Widget				
Setup List			Bu	tton		Slider/
Function	Туре	Single Latch	Multi	Inc/Dec	Snapshot	Value
	On/Off系	✓	✓			
Parameter	Level系			✓		✓
	Level系以 外の可変系					✓
Level Meter	r					
	On/Off系	✓	✓			
Link	Level系			✓		✓
Group Leve 外の	Level系以 外の可変系					√
Snapshot					✓	
Snapshot Group					✓	

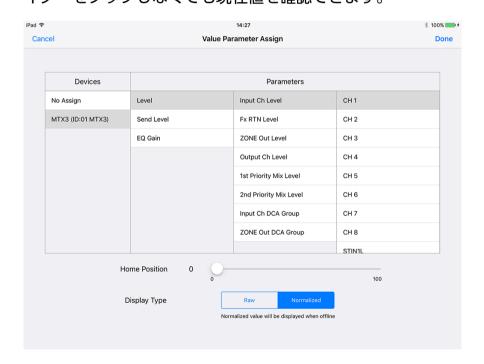
- * ✓: 設定可能
- * Remote Control Setup Listの再読み込みなどでウィジェットに設定できないIndexに変わった場合は、両者の紐付けは解消されます。

バリューへのアサイン

1. アサイン対象のバリューをタップしてコンテキストメニューを表示させ、[Parameter]をタップします。



2. [Value Parameter Assign]画面が表示されます。
ボリュームなどの連続可変パラメーターをアサインできます。
スライダーと同じパラメーターをアサインすることで、スライダーをタップしなくても現在値を確認できます。



3. [Home Position] でバリューのホームポジションにオフセットを設定します。

変化幅の途中に初期値が存在するパラメーター (例:EQの Gain)をアサインする場合に使用します。

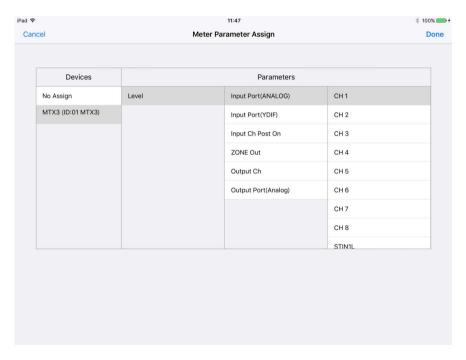
Display TypeでRaw(即値)かNormalized(正規化値)かを選びます。

メーターへのアサイン

1. アサイン対象のメーターをタップしてコンテキストメニューを表示させ、[Parameter]をタップします。



2. [Meter Parameter Assign] 画面が表示されます。 ボリュームなどの連続可変パラメーターをアサインできます。

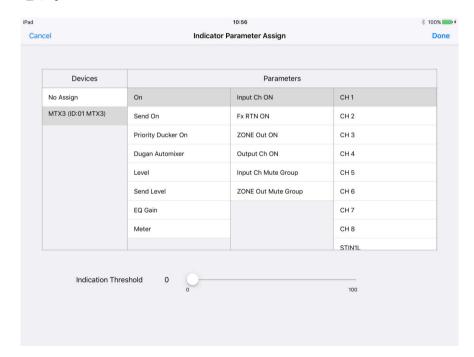


インジケーターへのアサイン

1. アサイン対象のインジケーターをタップしてコンテキストメニューを表示させ、[Parameter]をタップします。



2. [Indicator Parameter Assign] 画面が表示されます。 インジケーターやボタン、メーターなどのパラメーターをアサインできます。メーターをアサインした場合は、 [Indication Threshold] で点灯するしきい値を設定してください。



ソース アンド プログラム、プレイインフォ、トランスポート、トラックリスト、アルバム アートへのアサイン

1. アサイン対象のウィジェットをタップしてコンテキストメニューを表示させ、[Parameter]をタップします。



2. パラメーターをアサインする画面が表示されます。 情報を取得するまたはコントロールする機器をアサインします。 アサインするパラメーターは機器によって異なります。



ディスクラビアへのアサイン

1. アサイン対象のディスクラビアをタップしてコンテキストメニューを表示させ、[Parameter] をタップします。



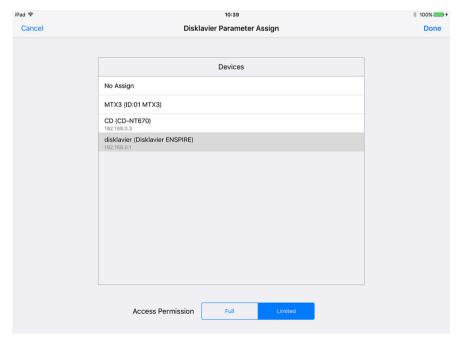
 $oldsymbol{2}$. [Disklavier Parameter Assign]画面が表示されます。

Disklavierのアクセスタイプを設定します。

[Full]にするとENSPIRE Controllerのほぼすべての機能を持つ画面が表示されます。

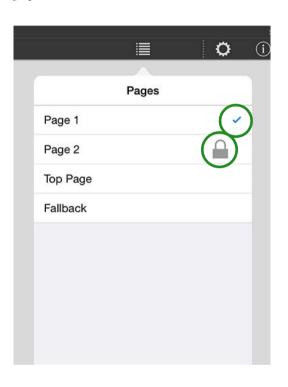
[Limited] にするとENSPIRE Controllerの機能のうち電源/録音/再生関連に限定した機能を持つ画面が表示されます。

機能の説明については「ENSPIRE Controller操作説明書」を 参照してください。



ページの切り替え — ページセレクションボタン(コントロールモード)

コントロールモードで、メニューバーのページセレクション ボタン**目**をタップすると、以下のページセレクション画面 が表示されます。



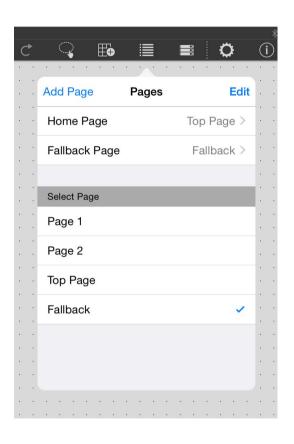
選択中の設定ファイルに含まれるページのうち、デバイスの [Preset] で設定されているページ群が表示されます。現在表示しているページには ✓ マークが表示されます。 パワーユーザーコードによる認証が設定されているページには 🎧 アイコンが表示されます。

開きたいページの欄をタップすると、そのページが開きます。 認証が設定されているページは、パワーユーザー認証をして 開きます。

パワーユーザー認証が必要なページからパワーユーザー認証が必要なページに移動した場合は、既に認証済みと判断して、パワーユーザー認証を要求しません。

ページの管理 ―ページマネージメントボタン(デザインモード)

デザインモードで、メニューバーのページマネージメントボタン **目**をタップすると、以下のページマネージメント画面が表示されます。



Add Page:新たにページを追加します。[Add Page]をタップして表示される画面でページ名を入力します。 [Done]をタップすると、新規ページが表示されます。

- * Add Page操作前に開いていたページは自動的に保存されます。
- * 1設定ファイルにつき設定できるページは最大50ページです。

Edit:ページの削除および入れ替えを行います。また、ページごとのサブ画面で追加設定を行います。

Home Page: オフライン時やモニターデバイスを設定していない場合に表示させるページを指定します。Home Page 欄をタップして表示されるリストから選択します。

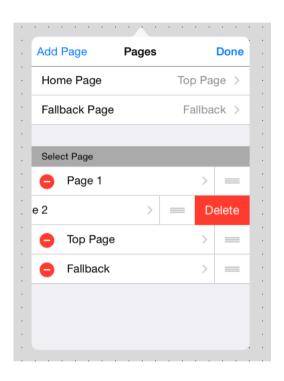
Fallback Page: [Preset] リコールで自動ページ切り替え時に認証失敗した場合に表示させるページ(フォールバックページ)を指定します。Fallback Page欄をタップして表示されるリストから選択します。

Select Page:制作した全ページが表示されます。現在表示しているページには ✓ マークが表示されます。開きたいページの欄をタップすると、そのページが開きます。

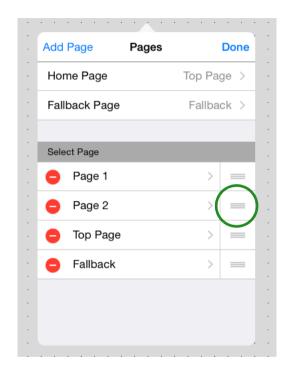
* パワーユーザー認証が設定されているページも認証なしで開きます。

[Edit]をタップすると、ページ名の左に アイコンが表示されます。このアイコンをタップして欄の右端に表示される [Delete]をタップすることで、そのページが削除されます。

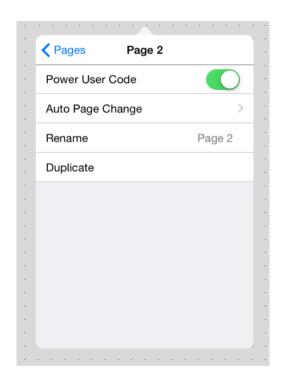
- * 現在読み込まれているページは削除できません。
- * Home Page、Fallback Pageに指定しているページは削除できません。



[Edit]をタップしページ名の左に アイコンが表示された 状態で、ページ欄右端の アイコンを押さえながらドラッ グし任意の位置でドロップすることで、ページ位置を移動させることができます。



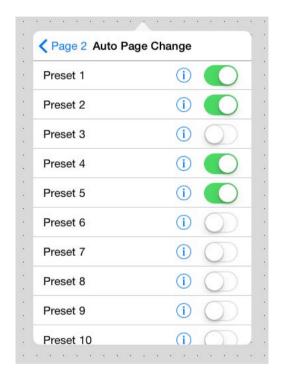
[Edit]をタップしページ名の右に>アイコンが表示された状態でページ名をタップすると、そのページの設定変更のサブ画面が表示されます。



Power User Code:選択したページに対してパワーユーザーコードによる認証を設定(で有効)します。設定したページをコントロールモードで開く際、パワーユーザーコードでの認証が必要になります。

Auto Page Change: モニターデバイス(コントロール対象のMTX/MRXシステムのプロセッサー)の[Preset] と、選択したページとの間での紐付けを設定します。この機能により、[Preset] ごとに表示するページを自動的に切り替えることができます。

Auto Page Change欄をタップすると、モニターデバイスに対する[Preset]の一覧が表示されます。選択しているページをページリストに含む[Preset]のスイッチをOn()に設定します。



(i) をタップすると、その[Preset] に紐付けされたページの一覧が表示されます。

* モニターデバイスを指定していないと、デバイスで[Preset]を切り替えても本アプリケーションのページは変わりません。デバイスと[Preset]を紐付けする場合は、モニターデバイスを設定してください。



初期表示用のページには **v** マークが表示されます。初期表示用のページはタップにより変更できます。

* [Preset] ごとに個別の初期表示画面を設定できます(右コラム参照)。

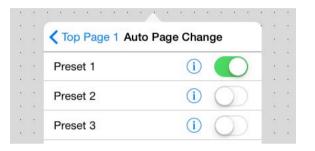
Rename:選択したページのページ名を変更します。入力欄に表示されるページ名を変更し[Done]をタップします。

Duplicate:選択したページを複製します。[Duplicate]をタップすると、選択ページ名の末尾に "_1" が追加されたページ名で複製されたページができます。ページに含まれる属性(認証コード設定やAuto Page Change設定の内容)も複製されます。

* 同名ページが存在する場合は "2"、"3"…と自動的に数字が増えます。

例)[Preset 1]/[Preset 2]/[Preset 3]それぞれに個別の初期表示画面を表示させる

- 1. あらかじめ初期表示用画面を3ページ分用意します。
- 2. ■→[Edit]→Preset 1用初期表示画面ページ→ [Auto Page Change]で下記画面を表示させ、 Preset 1のスイッチをOn(())にします。



3. Preset 1の (i) をタップして表示される画面で Preset 1用の初期表示画面(この例ではTop Page 1)をタップ(✓ 表示)します。



これで[Preset 1]が選択された場合の初期表示画面が"Top Page 1"に設定されました。同様にPreset 2、Preset 3用にもそれぞれの初期表示画面を割り当てます。

コントロールする機器の登録 ― デバイスマネージメントボタン

作成したカスタムパネルでコントロールする操作対象システム内のデバイスを登録します。

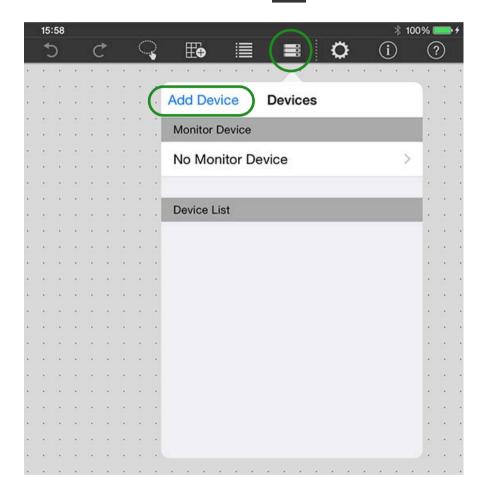
カスタムパネル上のウィジェットでコントロールするデバイス/パラメーターは、ここで登録したModelとUnit IDやIPアドレスにより識別されます。

デバイスの登録

- 1. デバイスの登録はデザインモードで行います。コントロールモードの場合は、オペレーションモードボタンでデザインモードに切り替えます。
 - * メニューバーが表示されていない場合は、以下のどちらかの方法で表示させてください。
 - 画面左上をタップしたあと、管理者コードで認証する。
 - ProVisionaire Touchを一度閉じてから開き直して、対象ファイルを 管理者コードで認証して再ロードする。



2. デバイスマネージメントボタン \blacksquare をタップします。



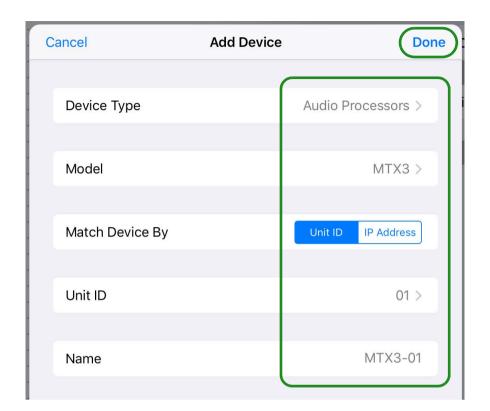
 $oldsymbol{3}$. [Add Device]をタップします。

4. 各項目を入力し、[Done]をタップします。

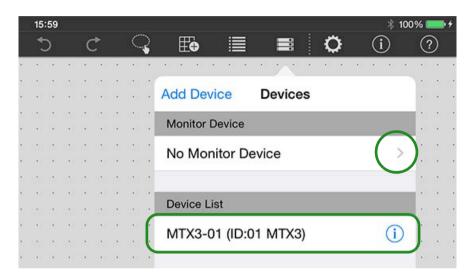
- **Device Type**: [Select]をタップして表示されるリストから、登録するデバイスのタイプを選びます。
- Model: [Select]をタップして表示されるリストから、 登録するデバイスのモデル名を選びます。リストの内 容はTypeで選択したタイプによって変わります。
- Match Device By: UNIT IDで機器を識別するかIPアドレスで機器を識別するかを選びます。ModelでUNIT IDを設定できない機器を指定した場合は、IPアドレスのみなので、表示されません。
- **Unit ID**: [Select]をタップして表示されるリストから、任意のID番号を選びます。
- **IP Address**:機器に設定したIPアドレスを入力してください。
- Name: [Enter device name]をタップし、識別のための名前(フレンドリーネーム)を入力します。

Modelで "MRX7-D" を指定した場合

Match Device ByでRCSLかIP Addressかの選択肢になります。RCSLはRemote Control Setup Listの略称で、RCSLを選択した場合、ファイル内にあるUNIT IDを識別に使います。[Import from Remote Control Setup List]ボタンが表示されます。ボタンをタップすると、DocumentsフォルダーにあるRemote Control Setup Listの一覧が表示されます。このリストから紐付けしたいファイルを選択します。Remote Control Setup Listは、MRX Designerで作成します。作成方法については、MRX Designerユーザーガイドをご覧ください。



5. 登録したデバイスが[Device List] 欄に追加されます。



- **6.** 同様の手順で、操作対象システム内のすべてのコントロールするデバイスを登録します。
 - * 登録できる台数は最大20台です。

モニターデバイスの設定

モニターデバイスもこの画面で指定します。
[Monitor Device]の[>]をタップすると、登録したデバイスが一覧表示されます。この一覧から、モニターデバイスを1台選んで指定します。

* モニターデバイスを指定しない(No Monitor Device)設定にした場合、デバイスで[Preset]を切り替えても本アプリケーションのページは変わりません。

• 登録したデバイスの情報の変更

[Device List] に表示される登録済みデバイス名の右に表示される i アイコンをタップすると、そのデバイスのUNIT ID またはIP Addressおよびフレンドリーネームの変更、登録の削除を行うことができます。

その際、ウィジェットにパラメーターがアサイン済みのデバイスでは、以下のように変更されます。

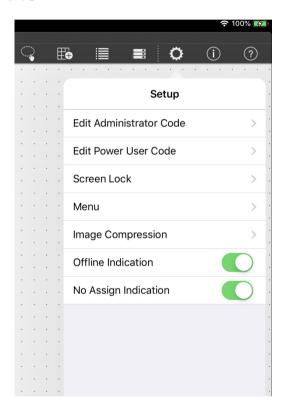
- ・UNIT IDまたはIP Addressを変更→新しいUNIT IDまたは 新しいIP Addressに自動変更されます。
- ・登録を削除→パラメーター情報はクリアされます。

MRX7-Dの場合は[UNIT ID]欄にはRemote Control Setup List(RCSL)の一覧が表示され、その変更が可能となります。その際、Indexはそのまま引き継がれますが、新しく取り込まれたIndexの属性がウィジェットで使用できない場合や[No Assign]だった場合は紐付けが解除されます。また、RCSLを選択した場合、ファイル内にあるUNIT IDを識別に使います。

コントロールパネルの設定 - セットアップボタン

アクセスコードの変更やスクリーンロックの設定など、アプリケーションに関する設定を行います。

デザインモードおよびコントロールモードで、メニューバーのセットアップボタン をタップすると、以下のセットアップ画面が表示されます。



* パワーユーザー認証でコントロールモードに入った場合、[Edit Administrator Code] は表示されません。

Edit Administrator Code:管理者コードを設定/変更します。管理者コードは4桁の数字のみで設定します。

- * 新規作成ファイルでは管理者コードは未設定(空)です。
- * 設定した管理者コードを変更する場合は、画面に現在の管理者コードの入力欄が表示されます。



Edit Power User Code:パワーユーザーコードを設定/変更します。管理者コードの場合と同様の設定画面で、4桁の数字のみで設定します。

* 新規作成ファイルではパワーユーザーコードは未設定(空)です。

Screen Lock: コントロールモードで、一定時間操作をしなかった場合に、表示が消え操作ができない状態(スクリーンロック)にできます。[Screen Lock] 欄をタップすると、スクリーンロックの設定画面が表示されます。

Unlock Code: スクリーンロックの解除コード(4桁の数字)を設定します。初期値 "0000" を書き替えて設定します。

Select Image:スクリーンロック時に表示させる画面を 指定できます。スタイルを設定します。→イメージの設定

Time:スクリーンロックするまでの時間を設定します。

Menu: コントロールモードにおいてメニューボタンを一定時間操作しなかった場合、自動的にメニューを非表示にできます(メニューオートクローズ)。

Transparent Menu Button: コントロールモードにおいてメニューボタンの閉じている状態()を不可視*にする機能です。

- * 不可視:本来の位置にメニューボタンはあるが、見えない(表示しない) だけの状態。その位置でタップするとメニューが開きます。
- * コントロールモードでのみ不可視が有効となり、デザインモードでは設定にかかわらず常にメニューボタンは表示されます。

Enable Auto-Close: メニューオートクローズ機能のOn/Offを設定します。On() に設定すると、[Time Until Menu Closes] 欄が表示されます。

Time Until Menu Closes: オートクローズするまでの時間を設定します。

Image Compression:アイコンや模様などを取り込む際の 圧縮を設定します。

Ratio:上記Compressionの画像圧縮率(1~100%)を設定します。

Offline Indication:機器のパラメーターがアサインされているウィジェットの右上に、オフライン時にインジケーターを表示させるか表示させないかを設定します。

On(()) に設定すると、オフラインの時にインジケーター (()) が表示されるようになります。

No Assign Indication:機器のパラメーターがアサインされていないウィジェットの右上に、クリップを表示させるか、表示させないかを設定します。

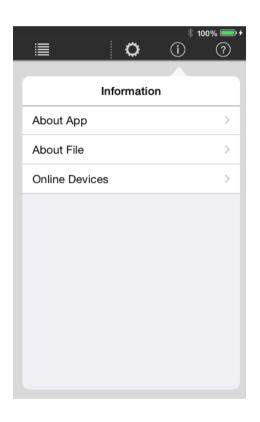
On(()に設定すると、クリップ(()が表示されるようになります。

^{*} Compressionの設定がOnのときだけ変更できます。

コントロールパネルの情報 — インフォメーションボタン

各種設定を表示します。

メニューバーのインフォメーションボタン ① をタップする と、以下のインフォメーション画面が表示されます。



* デザインモードでは、[Online Devices]は表示されません。

About App:本アプリケーションの情報を表示します。

Version: 本アプリケーションのバージョンおよびコピーライト情報です。

Privacy Policy: プライバシーポリシーを表示します。

License: オープンソースなどのライセンス情報を表示し

ます。

About File:現在読み込んでいる設定ファイルの情報を表示します。

Version: 設定ファイルを作成したときの、ファイルフォーマットのバージョンです。

Comment: 設定ファイルに関するコメントを入力/編集できます。

Administrator Comment: 管理者コードで認証した場合のみ、コメントを入力/編集できます。

Online Devices(コントロールモードでのみ表示): ウィジェットにパラメーターがアサインされていて、オンライン状態のデバイスの情報を表示します。表示内容はモデル名/UNIT ID (MTX/MRXシステムのデバイスのみ)/フレンドリーネーム/IPアドレスです。

About This Page(デザインモードでのみ表示):表示中のページに含まれるウィジェットの合計数を表示します。1ページに使用できるウィジェットは最多で150個です。

接続前の準備

Wi-Fiアクセスポイントの設定

各機器の取扱説明書に従って、Wi-Fiアクセスポイントを設定してください。

特別な設定は必要ありませんが、外部からネットワークへの 侵入を防ぐためにWPAのようなセキュリティーをかけてい ただくことをおすすめします。

以下を参考に設定してください。

- $m{I}$. Wi-Fiネットワークで名称を設定します。
- 2. セキュリティーモード(例:WPA2)とパスワードを設定します。
- 3. ワイヤレスモードを選択します。(802.11nや802.11g など)
- **4.** 可能であれば「Auto Channel Selection」を有効にしてください。

干渉が最小限におさえられたワイヤレスチャンネルが選択されます。

iPadとWi-Fiアクセスポイント間をより高速で通信するためには802.11 n のネットワークを選択することをおすすめします。また、外部アンテナを複数使用すると、Wi-Fiアクセスポイントに接続しやすくなります。

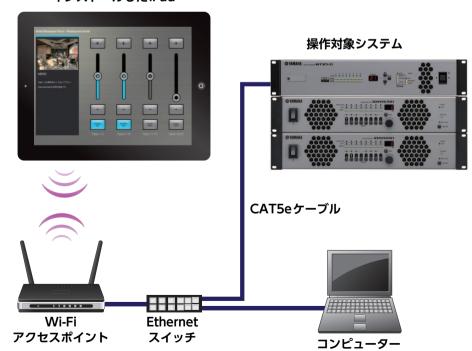
さらに、セキュリティー強化のために、ステルスモードや MACアドレスフィルタリングの設定をおすすめします。

操作対象システムへの接続

CAT5eケーブルを使って操作対象システムとWi-Fiアクセスポイントを接続します。

必要に応じて、Ethernetスイッチを挿入します。 音声信号を流すためにMTXやMRXのST INとMusicCast機 器のAUX OUTやANALOG OUT、DisklavierのOMNI OUTを結線してください。

ProVisionaire Touchまたは ProVisionaire Touch KIOSKを インストールしたiPad



● iPad以外のネットワーク設定例

MTX/MRXシステムの機器のIPアドレス設定(IP SETTING)を確認します。

本体リアパネルのディップスイッチ6がUNIT ID(上側)になっていることを確認します。

UNIT IDによってIPアドレスが設定され、「192.168.0.(UNIT ID)」となります。

- 2. MTX-MRX Editorを使用するコンピューターのIPアドレスを、自動的に取得するよう (DHCP) に設定します。
- 3. Wi-FiアクセスポイントのIPアドレスを変更します。 Wi-Fiアクセスポイントを操作対象システムと同じネットワーク(サブネット)に設定します。推奨するWi-FiアクセスポイントのIPアドレスは「192.168.0.254」です。コンピューターをWi-Fiアクセスポイントに接続して、コンピューターのWebブラウザから変更します。変更方法の詳細はWi-Fiアクセスポイントの取扱説明書を参照してください。
- **4.** ルーターにて自動的にIPアドレスを割り振る機能(DHCP) の設定をします。

操作対象システムの機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。推奨する範囲は「192.168.0.150」~「192.168.0.200」です。詳細はWi-Fiアクセスポイント内蔵ルーターの取扱説明書を参照してください。

5. MTX/MRXシステム以外の機器をネットワークに接続します。

6. MTX/MRXシステム以外の機器のIPアドレスを設定します。

Windowsで設定する場合は、以下の方法で設定します。 他の機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。推 奨する範囲は「192.168.0.100」~「192.168.0.149」で す。

ブルーレイディスクプレイヤーについては、テレビなどに接続して、「SETUP」画面の[Network]にある[IP Address]で [Manual]にしてIPアドレスとサブネットマスクを設定してください。

- <Windows>キーを押しながら<E>キーを押します。
 エクスプローラーが開きます。
- エクスプローラーの左側にある「ネットワーク」をクリックします。

ネットワークに接続されている機器が表示されます。

- 3. 「メディア機器」欄または「その他のデバイス」欄に表示 される機器のアイコンをダブルクリックします。 ブラウザーが起動して、機器の設定ができます。
- 4. IPアドレスの設定をします。
 - MusicCast機器の場合:ネットワークの設定画面で 「Wired」または「Wired LAN」を選択し、[DHCP]を オフにして、IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
 - Disklavierの場合: [設定]→[ネットワーク]→[有線ネットワーク]→[DHCP利用]で手動設定にして、IPアドレスとサブネットマスクを設定し、[送信]をクリックします。[送信]はスクロールしないと表示されないことがあります。
 - CL/QL/TF/Rシリーズ(AD/DA)の場合:本体で設定してください。

● iPadのネットワーク設定例

- 1. iPadのホーム画面で[設定] \rightarrow [Wi-Fi]をタップします。
- 2. [Wi-Fi]のスイッチをOn(\bigcirc)にし、表示されるアクセスポイントリストから操作対象システムのアクセスポイントを選択します。
- 3. Wi-Fiアクセスポイントのパスワードを入力します。
- **4.** ネットワークの設定をします。
 - IPアドレスを自動で取得する場合
 - 1. (j) をタップして、[IPを構成]を[自動]にします。



- 2. 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ルーター」、 「DNS」が設定されていることを確認します。
- 3. ホームボタンをクリックして設定を終了します。

● IPアドレスを手動で設定する場合(自動で取得できない場合)

i をタップして、[IPを構成]を[手動]にします。



- 2. 「IPアドレス」に操作対象システムのIPアドレスの第4オ クテット(上図の場合は「200」)のみを変えたIPアドレ スを入力します。
- 3.「サブネットマスク」に「255.255.255.0」を入力します。
- 4. 「ルーター」にルーターのIPアドレスまたはWi-FiアクセスポイントのIPアドレスを入力します。
- 5. 「DNS」にDNSのIPアドレスまたはWi-FiアクセスポイントのIPアドレスを入力します。
- 6. ホームボタンをクリックして設定を終了します。

● ネットワーク設定のポイント

1. 接続する機器のIPアドレスを同じサブネットワークに設定します。

	正しい設定の組み 合わせ例	間違った設定の 組み合わせ例
Wi-Fi アクセスポイント機器内 蔵のルーターおよび DNS *1	192.168.0.254	192.168. <mark>11</mark> .1
操作対象システム	192.168.0.1	192.168.0.1
iPad	192.168.0.200	192.168. <mark>11</mark> .50
コンピューター	192.168.0.253	192.168. <mark>11</mark> .253

^{*1} ルーター機能を持たないWi-Fiアクセスポイント機器の場合は、Wi-Fi アクセスポイント機器へのアクセス用IPアドレスを設定してください。

2. 操作対象システムはWi-FiアクセスポイントのLAN端子に接続してください。

インターネット接続端子(WAN端子)に接続すると、スマートデバイスと操作対象システムの間で正しく通信できません。

3. ProVisionaire Touchを起動してください。
ProVisionaire Touchが操作対象システムを検索し、自動的につながります。

困ったときは

症状	原因	対応
操作対象システムと通信で きない。	Wi-Fiの設定が間違っている。	操作対象システムのネットワークにつながっているアクセスポイントに適した設定をしてください。
設定ファイルの自動ロード 設定を解除できない。	設定ファイルが1つしかなく、 ファイルの切り替えによる設 定解除ができない。	iOSの「設定」ウィンドウにある「P.V. Touch」を選択して、 右側に表示される「P.V. Touchの設定」にある「Auto-load this file on next launch」スイッチを無効にしてください。
「インターネットに接続できない」というメッセージがiPad画面に現れて、ProVisionaire Touchが操作対象システムに接続できない。	iOS6以降は、Wi-Fiネット ワークの選択時にインター ネットへのアクセスを試みる 場合があるため。	Wi-Fi機器(アクセスポイント/ルーター)を適切に設定することにより、このメッセージが出ないようにする必要があります。Wi-Fi機器の設定変更の方法は、「リダイレクト機能」を無効にするなどがありますが、詳細は機器メーカーにお問い合わせください。
4つ以上のウィジェットを 同時に操作できない。	マルチタスク用ジェスチャが オンに設定されている。	ProVisionaire Touchを使用する場合は、マルチタスク用ジェスチャをオフに設定しておくことをおすすめします。 1. iPadで[設定]をタップします。
		2. [一般]>[マルチタスク用ジェスチャ]>[オフ]に設定します。
3つ以上のウィジェットを 同時に操作できない。	アクセシビリティ機能内の ズーム機能がオンに設定され	ProVisionaire Touchを使用する場合は、ズーム機能をオフに 設定しておくことをおすすめします。
	ている。	1. iPadで[設定]をタップします。 2. [一般]>[アクセシビリティ]>[ズーム機能]>[オフ]に設定します。
メモリーが足りないという 旨のダイアログが出る。	写真やPDFなどでアプリケー ション内でメモリーが圧迫さ れた。	使用する画像を削除するなどしてメモリーを削減してください。無視して写真などを追加するとアプリケーションがダウン する原因となります。

症状	原因	対応
1台のXMV/EXi8/EXo8に 8台のiPadを接続できない。	XMV/EXi8/EXo8に同時につながる8台のセッションのうち1セッションはMTX/MRXとXMV/EXi8/EXo8の間で通信するのに使用している。そのため、外部制御機器は最大で7台までしかつながらない。	XMV/EXi8/EXo8を制御するiPadを7台までにしてください。
NXAMPmk2がコントロー ルできない。	NXAMPmk2のUNIT IDが0 になっている。	コントロールするNXAMPmk2のUNIT IDを0以外にしてくだ さい。
ファイルが開かない。	ProVisionaire Touchで KIOSK用のファイルを読み込 もうとしている。	対応する拡張子が.ypvtの設定ファイルを指定してください。
ディスクラビアやトラック リストで何も表示されない。	アサインされている機器が ネットワークに接続されてい ない。	アサインされている機器をネットワークに接続してください。
不要になったRCSLファイ ルなどが削除できない。	iPad単体では「ファイル共 有」内にあるファイルが削除 できない。	iTunesを使って削除してください。 1. iPadをコンピューターに接続します。 2. iTunesに表示されたiPadのボタンをクリックしてから、 [App]または[ファイル共有]をクリックします。 3. 「ファイル共有」で、右側のリストから、削除したいファイルを選択します。 4. <delete>キーを押してから、[削除]をクリックします。</delete>
iTunesでPDFsフォルダー やImagesフォルダーに PDFファイルや画像ファイ ルをアップロードできない。	iTunesではサブフォルダーが 開かない。	PDFsフォルダーやImagesフォルダーをコンピューター上で作成し、その中にPDFファイルや画像ファイルを入れて、「ファイル共有」でフォルダーごと上書きしてください。ファイルを差し替える場合も同じです。

症状	原因	対応
機器のIPアドレスの設定方 法がわからない。	_	機器またはネットワークを通じて操作するアプリケーションの 取扱説明書をお読みください。
KIOSKでファイルを開くと きにAdministrator Code が要求される。	ProVisionaire Touchの場合、Export時に[Enable File Operations for User.]がオフになっている。	オンまたは[Yes]にしてExportを実行してください。
設定ファイルをExportした り、自動ロードできない。	設定ファイルをProVisionaire Touchのフォルダー以外の場 所に保存している。	Export したり、自動ロードしたい場合は、ProVisionaire Touchのフォルダーに保存してください。

ソフトウェアライセンスについて

機器によってオープンソースソフトウェアのコードを使用しています。 ライセンスの内容などにつきましては機器の取扱説明書や各方法でご確認ください。

• CL/QL

以下ウェブサイトでご確認ください。 http://www.yamahaproaudio.com/

• TF

本体のABOUT画面でご確認ください。

• MusicCast機器

以下ウェブサイトでご確認ください。 https://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/

• ブルーレイディスクプレイヤー

「SETUP」画面の[System]にある[Software License]でご確認ください。

Disklavier ENSPIRE

ENSPIRE Controllerアプリの「インフォメーション画面」にある[インフォメーション]でご確認ください。